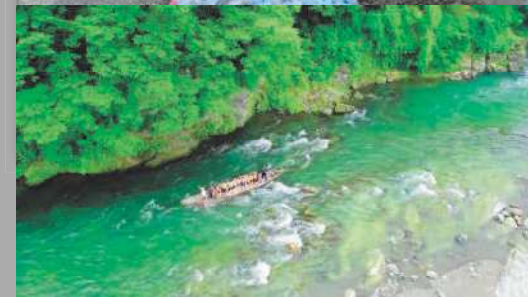


川の再生交流会 2026

令和8年2月14日(土)
埼玉会館



第1部 全体会

<2頁~29頁>

- ・ 基調講演 <2頁~11頁>
- ・ 「埼玉県の下水道と八潮市道路陥没事故の概要」
- ・ 埼玉県下水道事業管理者 北田 健夫
- ・ 事例発表 <12頁~23頁>
- ・ 「綾瀬川ワースト1とことん脱却大作戦について」
- ・ 埼玉県河川環境団体連絡協議会 大石昌男氏
- ・ 「県内河川の水質改善の取組について」
- ・ 埼玉県環境部水環境課
- ・ 「熊谷女子高等学校自然科学部の活動紹介」
- ・ 埼玉県立熊谷女子高等学校自然科学部
- ・ リバサポアワード授賞式 <24頁~29頁>

第2部 ポスターセッション

<30頁~39頁>

第3部 分科会

<40頁~57頁>

アンケート

<58頁~62頁>

主催：埼玉県
協力：埼玉県河川環境団体連絡協議会



県のマスコットコバトン

第1部 全体会

<事例発表>

埼玉県河川環境団体連絡協議会 大石 昌男氏

綾瀬川水質ファーストワン脱却とことん大作戦市民団体ネットワークの責任者。
浄化槽フォーラム全国理事埼玉代表。
河川の水質改善のため、地元や学校に対する講座を開くなどの活動を牽引。



埼玉県立熊谷女子高等学校 自然科学部

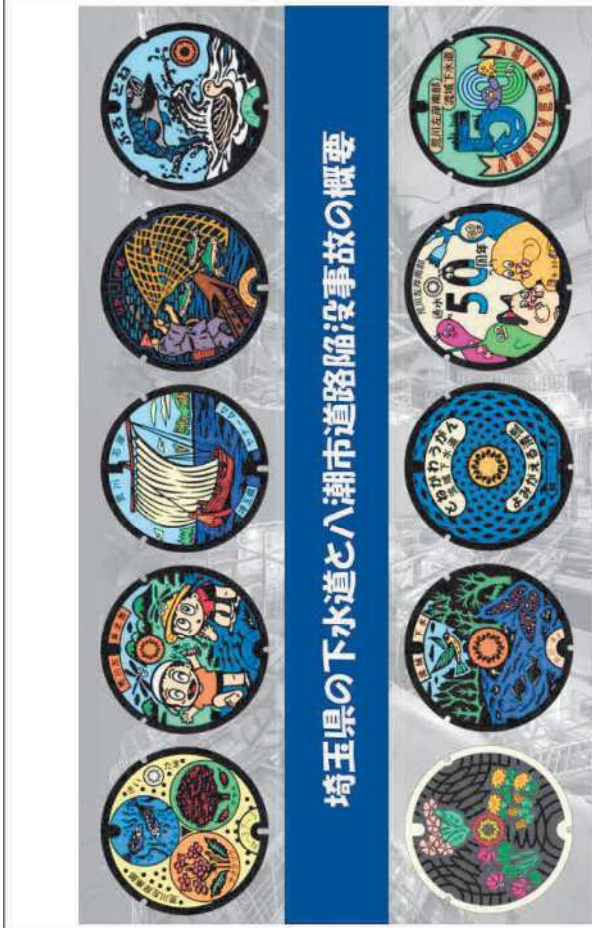
熊谷女子高校自然科学部は1年生4人、2年生3人の7人で生物班と化学班に分かれ活動しています。現在は、生物班では「ムサシトミヨの生態」「グッピーの飼育水を利用したアクアポニックス」、化学班は、自然界にみられるメノウの縞模様のような同心円状沈殿現象「リーゼガング現象」について研究を行っています。また、地域の自然観察や環境保護活動にも参加しています。今年度は埼玉県科学教育振興展覧会中央展で両チームとも優良賞を受賞しました。また、化学班は来年度の総文祭への出展も決まっています。生物班は、日本薬科大学主催の日薬ハイスクール科学・探究発表会で最優秀賞を受賞しました。今後も発表会等に参加し、研究成果を発表していきたいと思えます。



<リバサポアワード授賞式>

みんなで選ぶ「リバサポアワード」は、川の保全・共生に向けた活動の活性化に向け、川での優れた活動や川の魅力を伝える画像・動画を県民の皆さんに選んでいただき、広く発信するものです。授賞式では、各部門を受賞された皆様を表彰します。





埼玉県の下水道と八潮市道路陥没事故の概要

埼玉県の下水道 と 八潮市道路陥没事故の概要

- 1 埼玉県の下水道について
 - ・ 下水道の整備
 - ・ 公共下水道と流域下水道
 - ・ 下水道が流れる仕組み
 - ・ 下水道管の種類
 - ・ 下水道使用料
- 2 八潮市道路陥没事故の概要について
 - ・ 事故対応経過
 - ・ 復旧工事
 - ・ 抜本的な対策
 - ・ 今回の事故をうけての課題

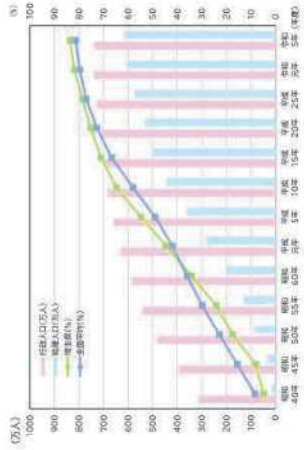
P2~9

P10~34

埼玉県の下水道

下水道の整備

- 1931年(昭和6年)に川越市で初めて事業着手
- その後、1939年(昭和14年)に川口市、1950年(昭和25)に行田市、以降、久喜市、大宮市、秩父市、1955年(昭和30年)には浦和市で下水道整備に着手



昭和40年以降、急速に整備が進捗



3

埼玉県の下水道

公共下水道と流域下水道

公共下水道とは？

家庭や工場などの事業所からの下水を直接受け入れる下水道

単独公共下水道
公共下水道のうち下水処理場があるもの(県内18か所)

流域下水道
複数の市町の公共下水道から排出される下水をまとめて処理する広域的な下水道

流域下水道

- ・ 埼玉県の流域下水道
- ・ 直径が4m以上の下水道管もある。
- ・ 県全域の流域下水道管を合わせると、439km
- ・ (さいたま市から神戸市まで)
- ・ 処理人口は565万人(公共下水と併せると616万人)

令和5年度末
下水道普及率
83.6%
(全国14位)




4

埼玉県の下水道

下水が流れる仕組み

下水道管には、自然な勾配がついている
 → 自然に流下する。
なぜなら...
 下水道管を曲げたり、圧力で流すと、詰まったり損傷するため。
 適正な勾配を決めている。
 緩→土砂や汚物が堆積する
 急→地下深くまで掘らなければならない

中継ポンプ場とは
 流れてきた下水を、ポンプの力を使って地表近くまでくみ上げ、再度自然に流下するよう下水道管へ流す。



出典：(公社)日本下水道協会ホームページ

5

埼玉県の下水道

下水道の種類

合流式
 汚水管と雨水管が1本の管に流れているもの



設備投資が比較的少なく、早期に下水道を普及可能
 大雨で雨水の量が増えると、マンホールから溢れる原因

分流式
 汚水管と雨水管がそれぞれ分かれているもの



雨天時にも、比較的安定して処理がしやすい
 建設費がかかる。他の埋設物との干渉を懸念。

7

埼玉県の下水道

下水道管の種類

雨水管
 道路などに降った雨水が流れる。



参考：神奈川県下水道公社

汚水管
 お風呂や料理などで使った生活排水が流れる。



参考：神奈川県下水道公社

雨が降った際に浸水被害が起きにくいよう、道路に溜まった雨水を排水するため。

汚水による臭気を防ぐため、蓋に穴がありません。

6

埼玉県の下水道

(参考) 浄化槽とは？

浄化槽
 トイレなど生活排水を処理する機能を持った設備のこと
 浄化後は、川や塘に放流される。



埋田前の浄化槽



地下に埋設された浄化槽



下水道事業を行っている市町村にお住まいの場合でも、下水道管が引けない場所は浄化槽を使っています。



8

8

埼玉県の下水道

下水道使用料

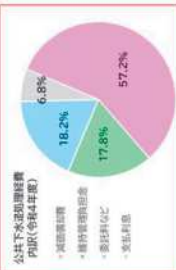
下水道使用料とは… 下水の処理や機械や設備の導入、維持管理に係る費用を賄うための料金

誰がどのように負担するのか？
各家庭で水道の使用量に応じて負担する、多くの自治体では水道料金と一緒に請求される。

- 下水道使用料の使い途は？
- ✓ 維持管理負担金… 県の流域下水道に関する費用を市町に請求
 - ✓ 下水道管やマンホールの維持管理費用
 - ✓ 機械や設備に係る修繕費
 - ✓ 民間事業者への委託料
 - ✓ 支払利息 等

項目	金額
維持管理負担金	1,000円
下水道管維持費	500円
マンホール維持費	500円
その他	100円
合計	2,100円

項目	金額
維持管理負担金	1,000円
下水道管維持費	500円
マンホール維持費	500円
その他	100円
合計	2,100円



9

埼玉県の下水道 と 八潮市道路陥没事故の概要

1 埼玉県の下水道について

- ・ 下水道の整備
- ・ 公共下水道と流域下水道
- ・ 下水道が流れる仕組み
- ・ 下水道管の種類
- ・ 下水道使用料

P2~9

2 八潮市道路陥没事故の概要について

- ・ 事故対応経過
- ・ 復旧工事
- ・ 抜本的な対策
- ・ 今回の事故をうけての課題

P10~34

※八潮市道路陥没事故は令和7年7月に発生し、現在も復旧作業が続いています。

八潮市で発生した道路陥没事故について

事故概要

- 陥没事故の概要
- 発生日時: 令和7年1月28日(月)午前9時49分頃
- 発生場所: 八潮市中央一丁目地内(東武武蔵野線(中央一丁目交差点内))

八潮市雨水幹線(約2,100m)の陥没



- 事故への対応の主な経緯
- 1/28 9:49頃 陥没事故発生
- 消火による救助活動開始
- 埼玉県建築業協会、日本建築業連合会が現地入り
- 1/29 未明 クレーンにより事故現場の一部を引き上げ
- 500 危険が派生するのを回避
- 自衛隊、国土交通省のJTEC入隊
- 1/30 陥没の中で車両による作業を行えるようスロープ施設を着手
- 2/11 県として、キャビンの救出に向けた土留め措置を進めることを決定

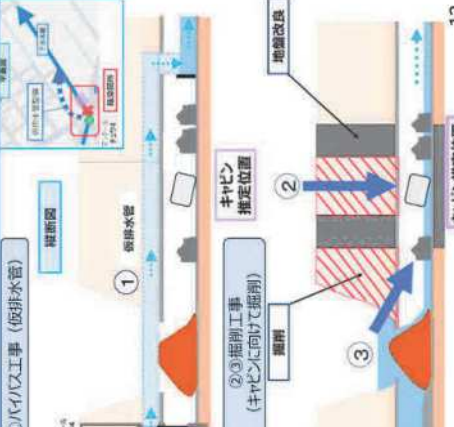


11

八潮市で発生した道路陥没事故について

事故概要

- キャビン救出に向けた土留め措置の概要
- 陥没箇所を流れる下水を迂回させる雨水管によるバイパス工事を進めるとともに、キャビンにアクセスするための掘削工事を基礎部分から先で実施
- この方法が最も早期にキャビンにアクセスするとともに、損傷した下水道管の応急復旧を断る方法
- 運転手の方を5/2に救出、キャビンを5/16に引き上げ



12

事故概要 八潮市で発生した道路陥没事故について

中川流域下水道
 中川流域下水道管線及び
 中央幹線に建設された埋設管を対象

■ 破損した下水管の概要
 ○ 処理区域面積 約1.7万ha (約1.47万人)
 ○ 処理人口 約14.3万人 (約12.3万人)
 ○ 汚水量(日最大) 489,784m³/日
 ○ シールド工法
 ○ 昭和58年供用開始(42年経過)
 ○ 令和13年度の調査の判定結果は、
 ○ 管径差 121km (100km)
 ○ 普及率 83.3%
 ○ 廃線区画 11市4町 (9市3町)
 ※青字は陥没事故の発生した中央幹線に接続する部分

■ 陥没箇所の特徴等
 ○ N層の低い砂・シルト
 ○ 地下水位が高い
 ○ 地中埋設物が数多く隣接

■ 中川流域下水道の概要(令和5年度末時点)
 中川流域下水道管線及び中央幹線に建設された埋設管を対象

■ 陥没事故現場

事故対応経過
陥没穴からの救出

1月28日(火) から
バキューム車での移送

1月29日(水) から
春日部中継ポンプ場から
河川への緊急放流

15

事故対応経過
陥没穴からの救出

八潮市道路陥没事故 陥没箇所 全景

01月28日(火)
02月28日(金)

03月25日(火)
04月29日(火)

14

事故対応経過
陥没穴からの救出

八潮市道路陥没事故 スロープ整備、がれき・支障物の撤去

1月31日(金) から スロープ整備

2月7日(金) 農業用水ホックスカルバート撤去

スロープ位置
ホックスカルバート位置

6

事故対応経過
二次災害防止

八潮市道路陥没事故 陥没箇所周辺の地盤改良



地盤改良位置




2月19日(水) 避難区域を解除

17

事故対応経過
土木的措置による救出

八潮市道路陥没事故 バイパス工事・掘削工事（土木的措置）の概要




バイパス工事
(仮排水管)

掘削工事
(キャビンに向けて掘削)

19


事故対応経過
説明会等

八潮市道路陥没事故 住民説明会等の開催



令和7年2月5日(水)～
電話相談窓口 下水道管理課内

令和7年2月22日(土)
説明会 八潮メッセホール



令和7年8月22(金)～24日(日) (計8回)
補償説明会 (計8回) やしお生涯学習館ほか

令和7年11月23日(日)
確化の事業に関する講演会 やしお生涯学習館

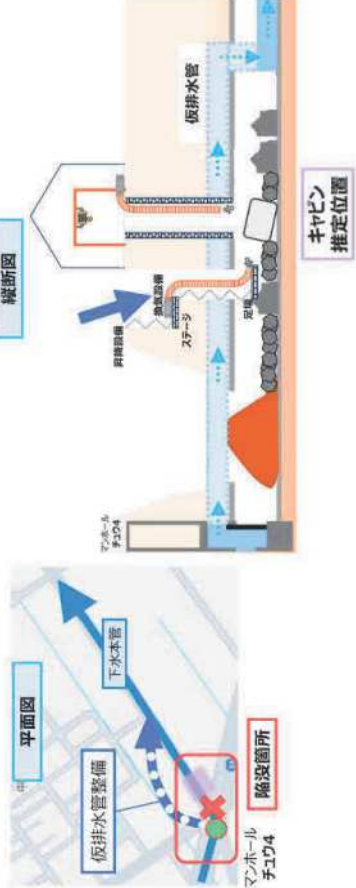
令和8年1月30日(金)～2月1日(日) (計4回)
復旧工事に関するオーファンハウス 八潮メッセ会議室

18

上記ほか、専用ホームページの開設、かわつら版の発行、健康相談(八潮市)などを実施。

事故対応経過
土木的措置による救出

八潮市道路陥没事故 土木的措置のイメージ



縦断面図

平面図

陥没箇所
マンホール
チユウ4

仮排水管設備

下水本管

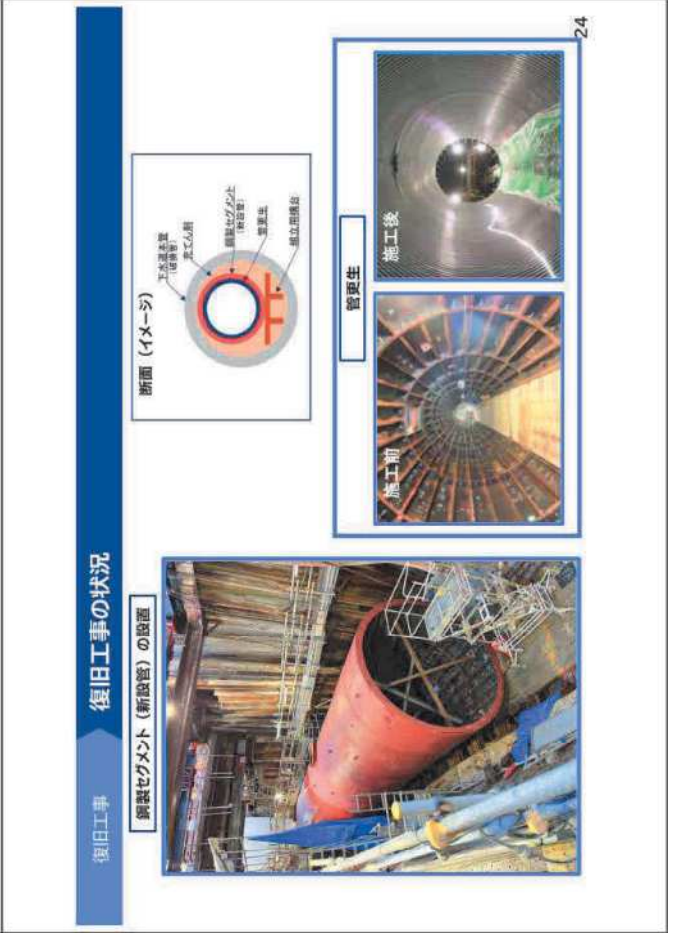
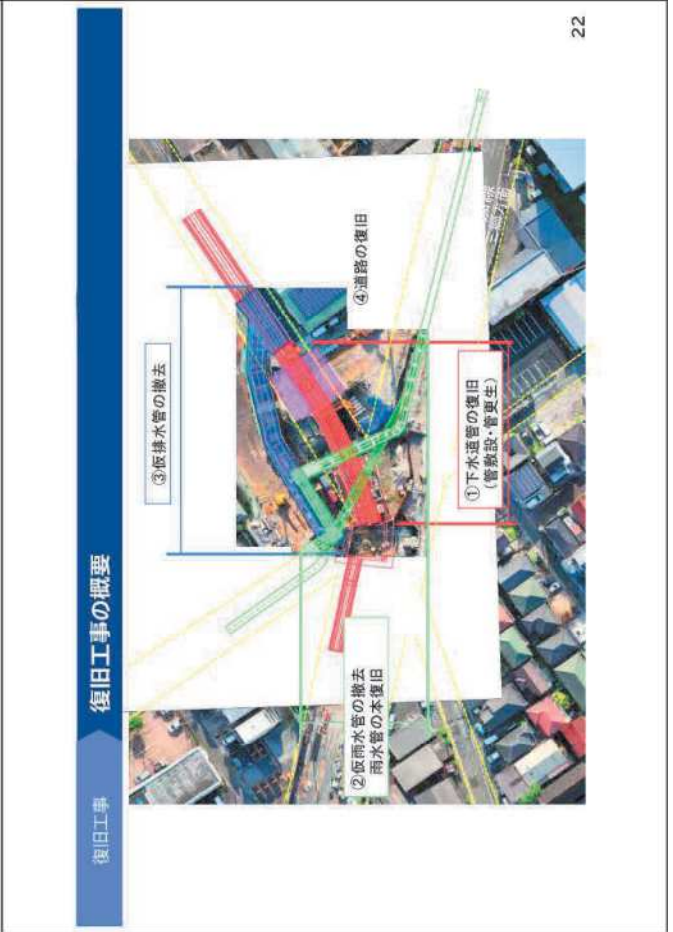
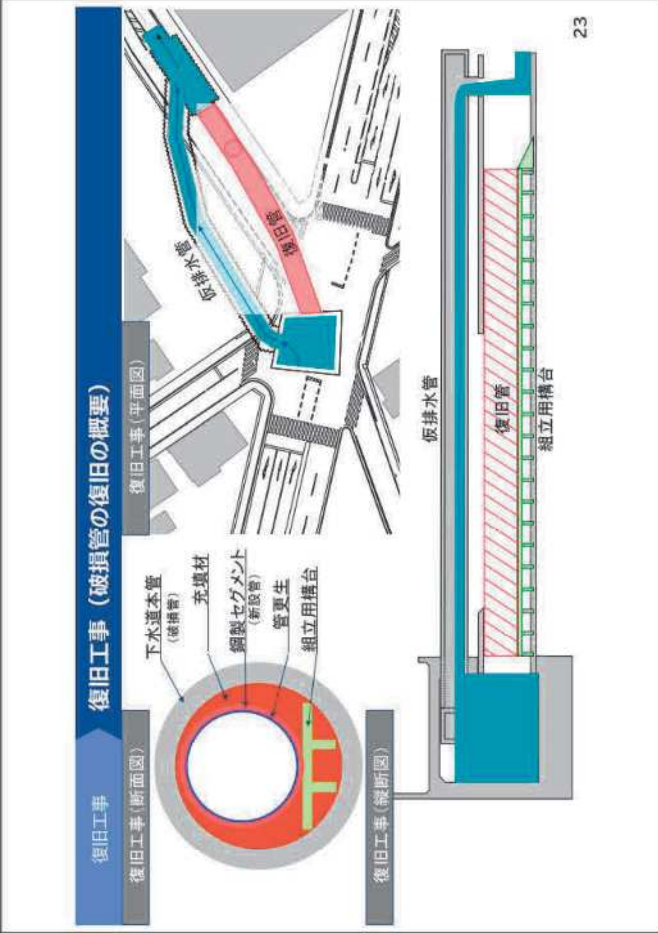
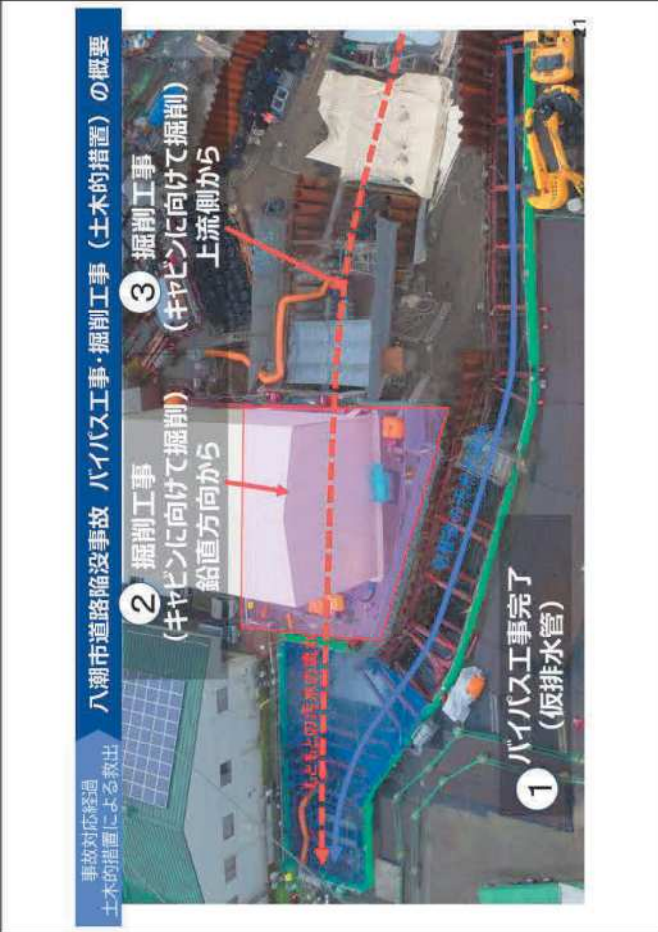
既設設備

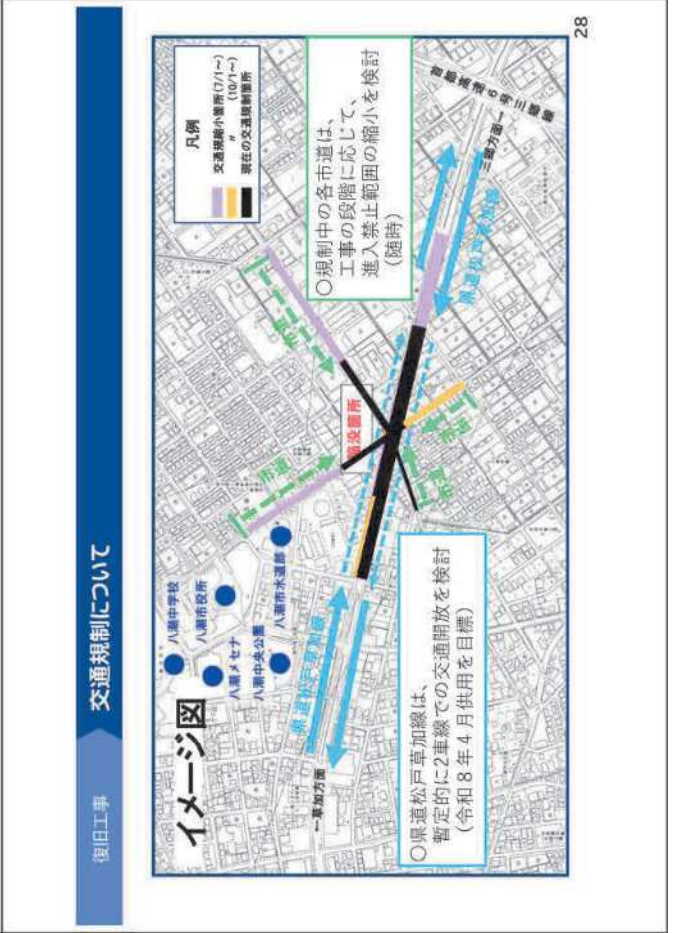
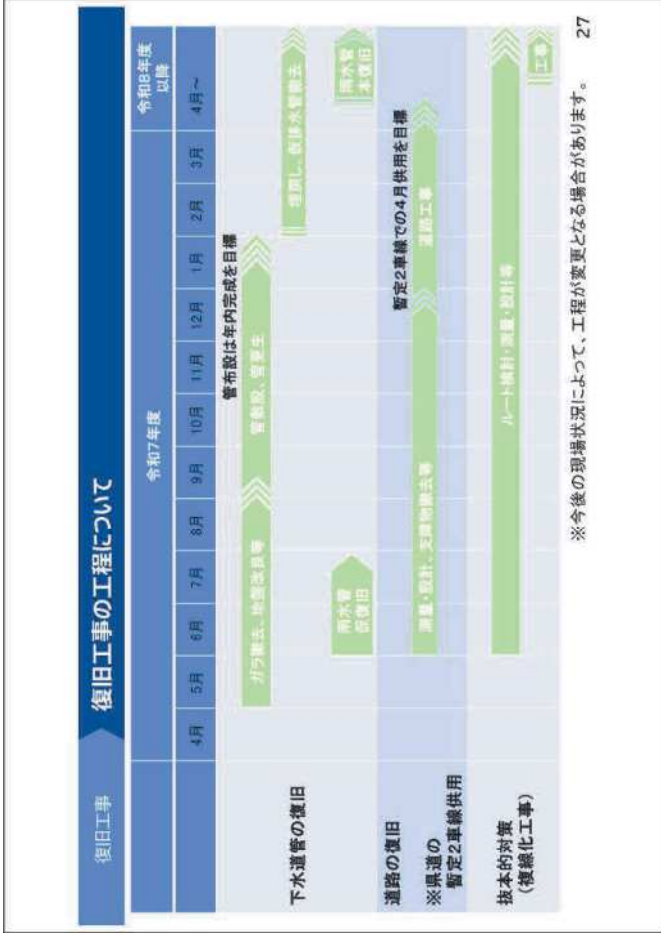
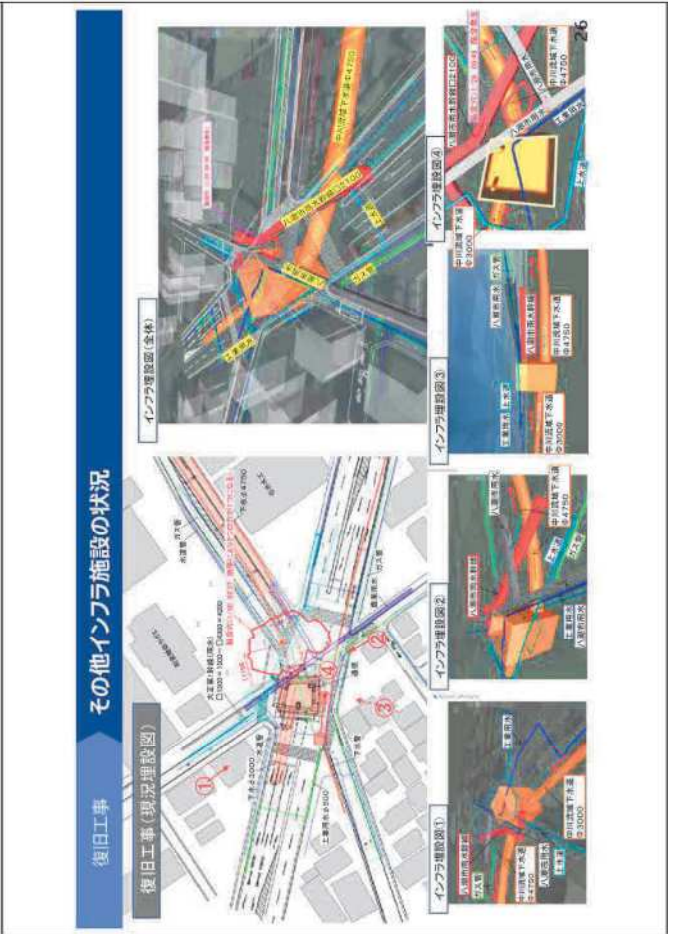
スケーラ

仮排水管

キャビン
推定位置

20





29

修復工事

環境対策について ~ 振動・騒音 ~

○ 対策内容

- ・防音パネル設置箇所
- ・機器の使用箇所の精査 (振動・騒音)
- ・施工時間の工夫 (振動・騒音)

※ 敷出後の工事は、原則以下のとおりとしています。

- ・星間施工
- ・日曜日は休工

写真、防音パネル設置状況

図、防音パネル設置箇所

32

修復工事

環境対策について ~ 臭気 ~

○ 発生源

- 一 下水、汚泥、汚泥のついた載
- 臭気発生箇所
- コンクリート製の設置一部埋戻し
- 防音シート高の設置(風通)
- 敷出作業に伴う開口
- 敷出作業に伴う開口
- 敷出による下水、汚泥等の露出
- バイパス工事に伴う開口

○ 対策方法

- 消臭剤の噴霧
- ・噴霧器の設置
- 発生量の抑制
- ・防音シート
- ・送風機
- ・開口部の一部埋戻し
- ・蓋設置
- ・強化 9月 液面の補強
- ・下水への薬剤投入
- 原因物をなくす
- ・角落し設置
- ・強化 9月 止水強化による下水の漏れ
- ・軽減対策
- ・破損管修復
- 12月、下水の漏れがなくなる

写真、防音パネル設置状況

図、防音パネル設置箇所

30

修復工事

環境対策について ~ 臭気 ~

○ 発生源

- 一 下水、汚泥、汚泥のついた載
- 臭気発生箇所
- コンクリート製の設置一部埋戻し
- 防音シート高の設置(風通)
- 敷出作業に伴う開口
- 敷出作業に伴う開口
- 敷出による下水、汚泥等の露出
- バイパス工事に伴う開口

○ 対策方法

- 消臭剤の噴霧
- ・噴霧器の設置
- 発生量の抑制
- ・防音シート
- ・送風機
- ・開口部の一部埋戻し
- ・蓋設置
- ・強化 9月 液面の補強
- ・下水への薬剤投入
- 原因物をなくす
- ・角落し設置
- ・強化 9月 止水強化による下水の漏れ
- ・軽減対策
- ・破損管修復
- 12月、下水の漏れがなくなる

写真、防音パネル設置状況

図、防音パネル設置箇所

31

修復工事

環境対策について ~ 振動・騒音 ~

○ 対策内容

- ・防音パネル設置箇所
- ・機器の使用箇所の精査 (振動・騒音)
- ・施工時間の工夫 (振動・騒音)

※ 敷出後の工事は、原則以下のとおりとしています。

- ・星間施工
- ・日曜日は休工

写真、防音パネル設置状況

図、防音パネル設置箇所

32

修復工事

環境対策について ~ 臭気 ~

○ 発生源

- 一 下水、汚泥、汚泥のついた載
- 臭気発生箇所
- コンクリート製の設置一部埋戻し
- 防音シート高の設置(風通)
- 敷出作業に伴う開口
- 敷出作業に伴う開口
- 敷出による下水、汚泥等の露出
- バイパス工事に伴う開口

○ 対策方法

- 消臭剤の噴霧
- ・噴霧器の設置
- 発生量の抑制
- ・防音シート
- ・送風機
- ・開口部の一部埋戻し
- ・蓋設置
- ・強化 9月 液面の補強
- ・下水への薬剤投入
- 原因物をなくす
- ・角落し設置
- ・強化 9月 止水強化による下水の漏れ
- ・軽減対策
- ・破損管修復
- 12月、下水の漏れがなくなる

写真、防音パネル設置状況

図、防音パネル設置箇所

今回の道路陥没事故を受けての課題等

課題等

① 事故と災害の複合現象
事故から災害に移行した初のケース
 補助的救助活動から土木的措置への円滑な移行・連携に課題
 ・ 複合事象における危機管理体制

② 事故の原因究明
 埼玉県では国の規定よりきめ細かく下水道管内を点検調査
 3年前の調査でも特別な異常ではなく、変化が急速に進展・顕在化した可能性
 ・ 適切な原因究明が必要
 ・ 点検調査が適切・十分であったか

事故が発生した区間の管径の標準断面(φ4100mm)

『管の腐食に関する評価の基準』
 ・ランクA(軽微): 腐蝕露出状態
 ・ランクB(中程度): 骨材露出状態
 ・ランクC(軽度): 表面が荒れた状態
(下水道維持管理計画 業務編 2014年版)

当該箇所の前回(令和3年度実施)の管径調査の判定結果は、『管の腐食:ランクB(中程度)』

33

上水道と下水道の違い

県が管理する大規模・広域的な上水道と下水道を比較すると...

	上水道	下水道
管径	最大2,000mm	最大4,750mm
埋設の深さ	圧送しているため勾配の必要がなく、標準土被り1.2m	自然流下のため下流ほど深くなり、深い所は土被り2.0m
水の流れ	圧送しているため要所のバルブで調整可能	自然流下のため止められない
漏水・溢水が発生した場合の影響	衛生・環境面での大きな影響はない	衛生・環境面での影響が生じる
作業環境	なし	硫化水素 可燃性ガス

35

今回の道路陥没事故を受けての課題等

課題等

④ 流域下水道の維持管理・更新
 管径3m以上の流域下水道はこれまで更新の実績なし
 管更生は、流速や水深が高い場合は適用不可
 今回のパイプ工事も前例がない工事
 ・ 日常の維持管理を考慮した施設計画
 ・ 点検・調査や更新の手法の確立、負担のあり方の整理

今後の抜本的対策の方針

更生工法の一画

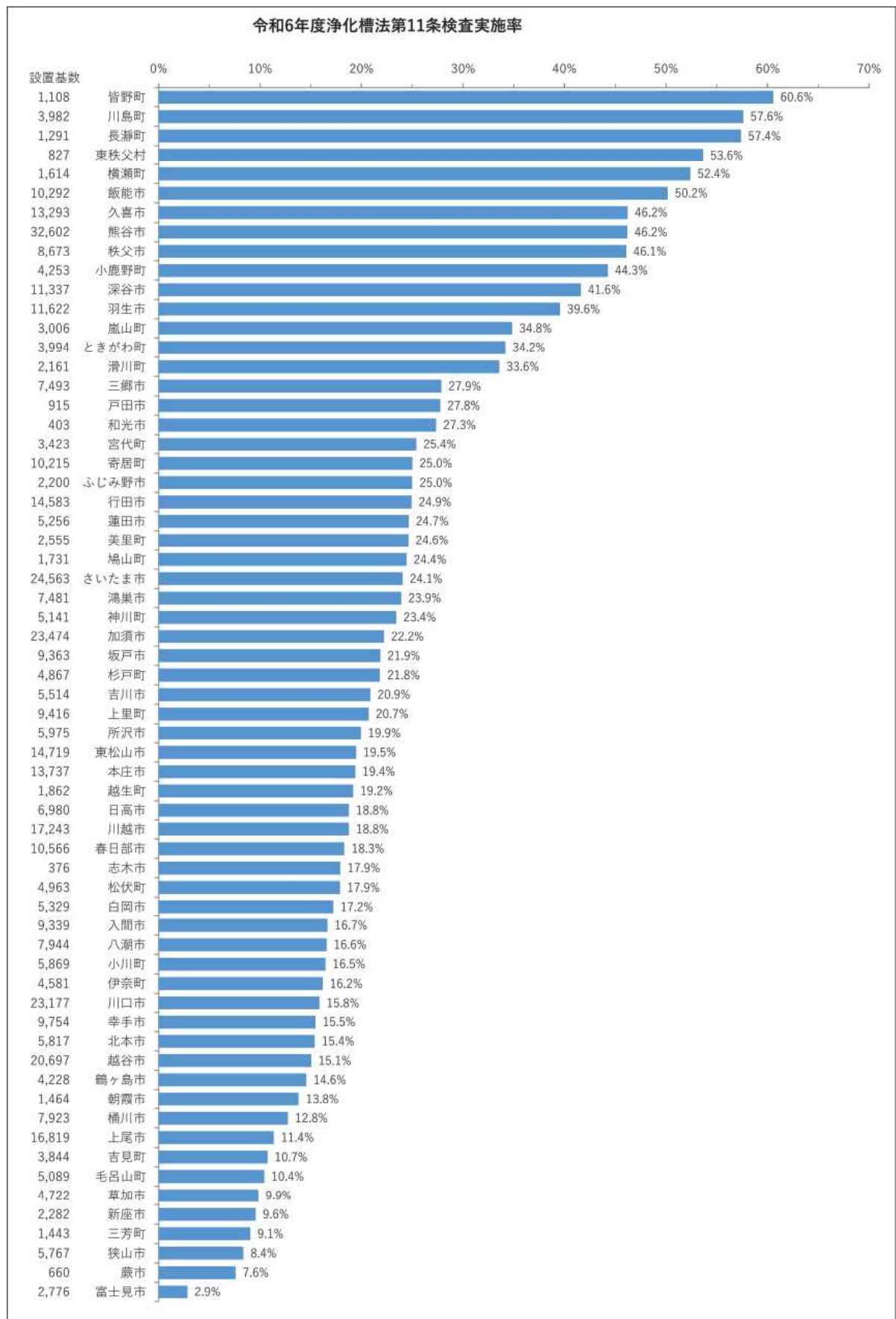
更生前

更生後

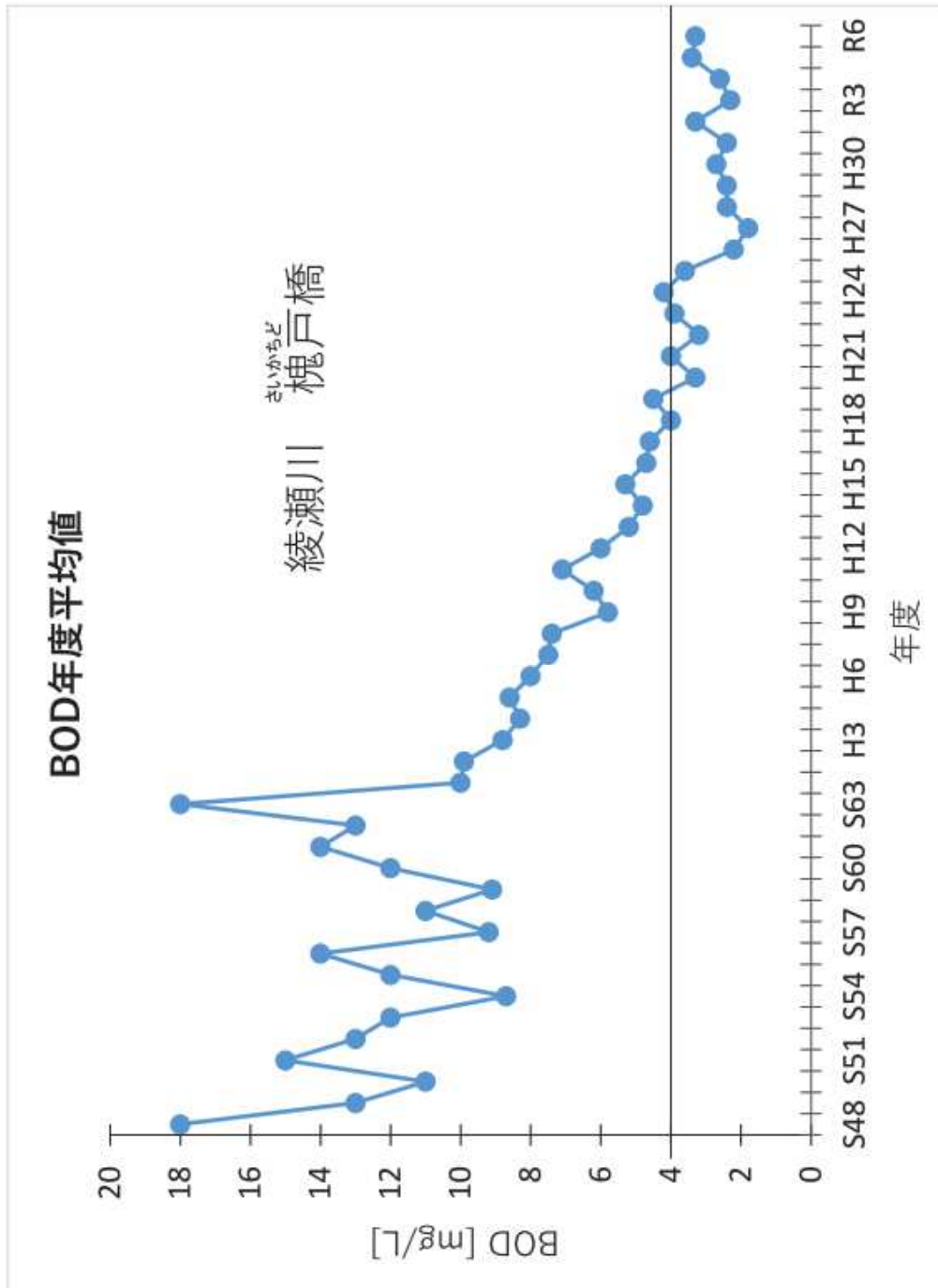
維持管理性やリタンダンジナーの確保等も踏まえ、
中央幹線下流部の複線化 を行っていく方針

34

■事例発表 綾瀬川ワースト1とことん脱却大作戦について



■事例発表 綾瀬川ワースト1とことん脱却大作戦について



■事例発表 県内河川の水質改善の取組について



3

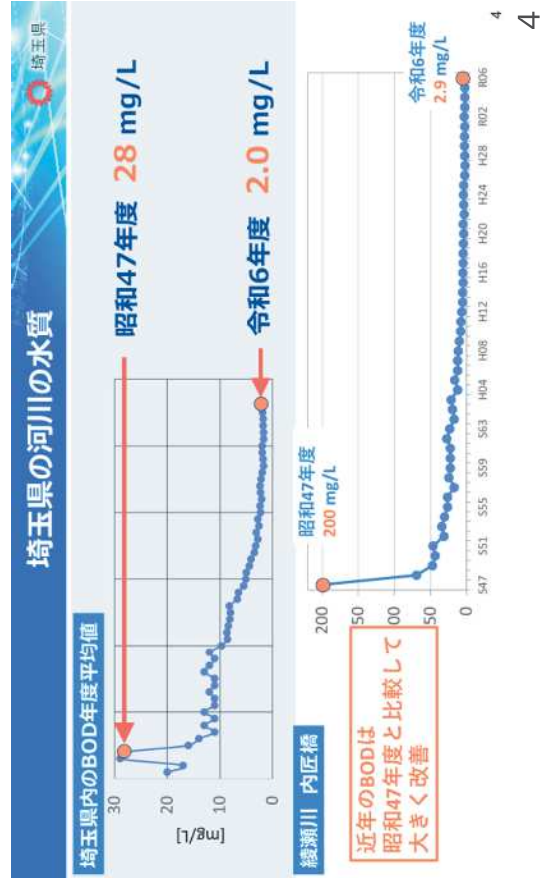
埼玉県

『県内河川の水質改善の取組について』

埼玉県水環境課

埼玉県7カ所の川が「日本の清流」に選ばれた

1



4

「川の国埼玉」のポテンシャル 埼玉県

日本一 川幅 (堤防間の距離)
 2,537m 荒川(鴻巣市～草野町)
 東証スクイアツリ-4つ分の長さ

全国第2位 利根川水系
 3.9% 荒川(高野町)
 ラインドリ-97ファイナ

河川面積150km²
 ・山手線の内側の約2.4倍

利根川水系の面積は荒川水系の約1.8倍

埼玉県最大の川長
 2,537m 荒川(鴻巣市～草野町)

埼玉県最大の川幅
 2,537m 荒川(鴻巣市～草野町)

荒川水系

2

■事例発表 県内河川の水質改善の取組について



5



6



7



8

埼玉県

草加市内での様々な活動

「川の国応援団」の方々

綾瀬川左岸のゴミ拾い活動を長く実施
水辺環境の保全・カヌーに親しむ



FSC サルベージ協会

河川内不法投棄の自転車・バイクの引き上げや、
引き上げた物でモニュメントを作り展示するなどの
浄化活動や啓発運動を行う



ロープ掛け込み
みんなで引っ張る
自転車引き上げ

獨協大学経済学部米山ゼミ
「伝右川再生に向けた
支援プロジェクト」チーム

- 川の再生活動に関する啓発活動
- NPO、市民団体等と連携した川の再生活動
- 環境教育、環境学習、及び研究発表

9

埼玉県

終わりに

皆様のおかげで
県内河川のBODが大幅に改善！

綾瀬川の様子も・・・



昭和48年

↑



令和元年

泡がなくなってる！

川の国応援団を始めとする各団体・企業様には
多大なる御協力をいただき厚くお礼申し上げます

10



1



2



3



4

1. ムサシトミヨの生態

5



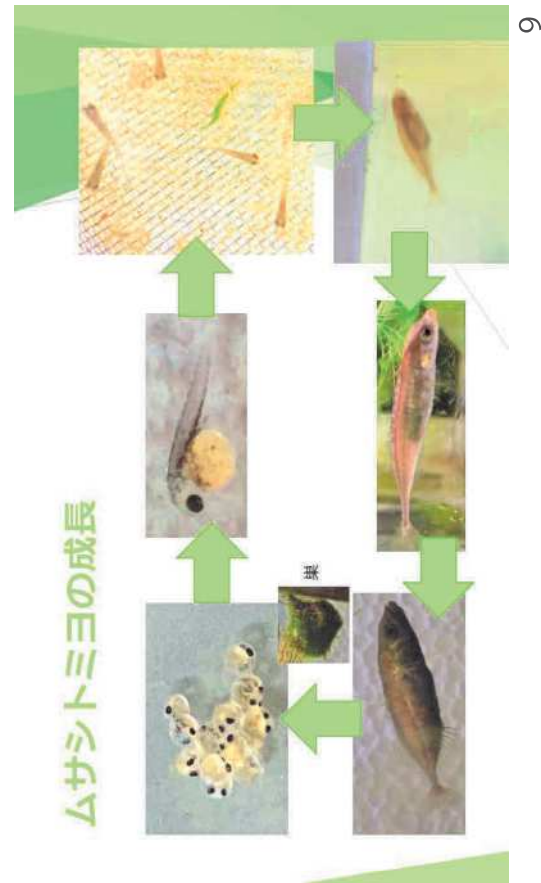
7

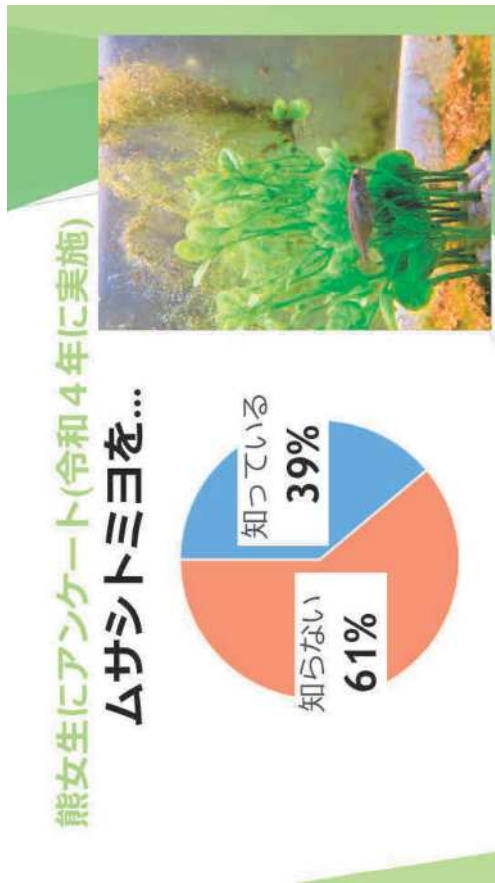


6



8





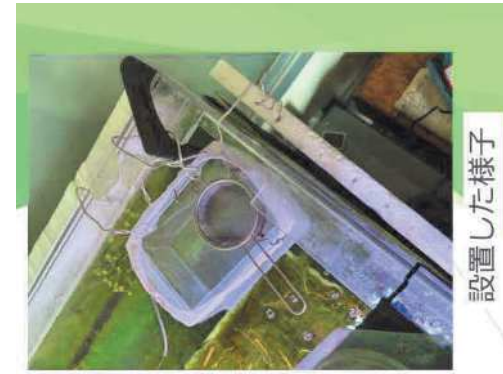
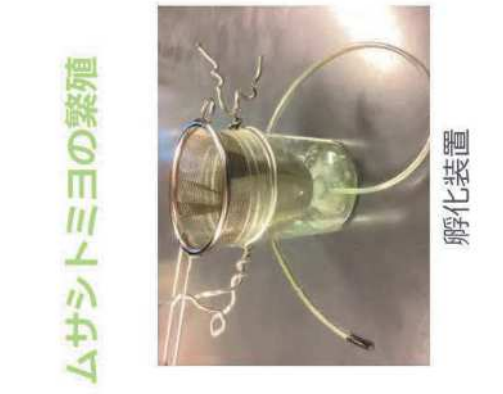
13



15



14



16

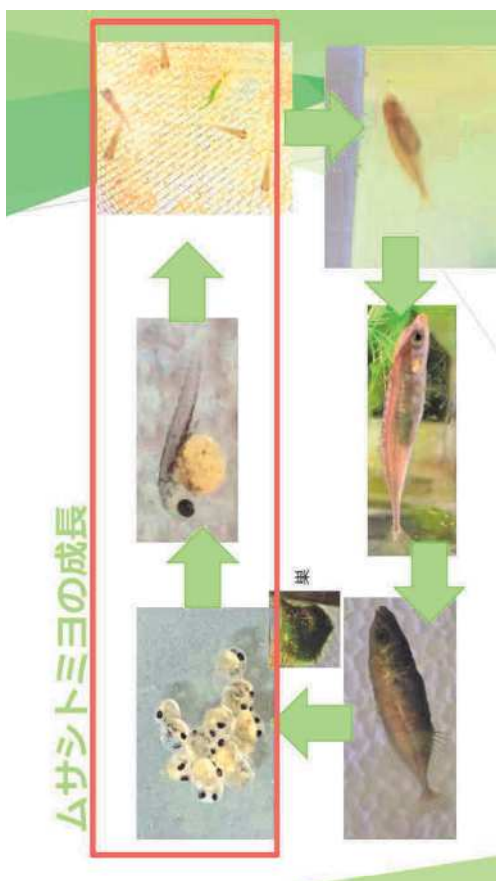
■事例発表 熊谷女子高等学校自然科学部の活動紹介



19



20


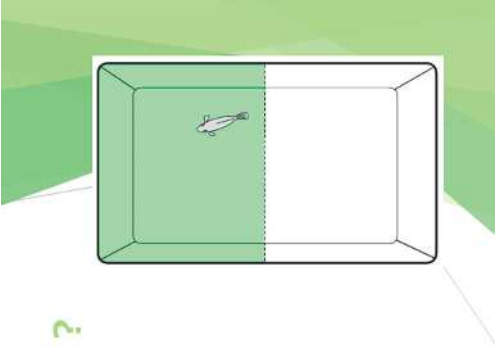


17






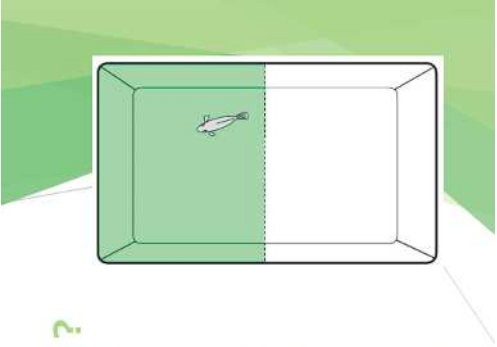
18

つまり...?

23

ムサシトミヨの好む環境とは?

21

結果

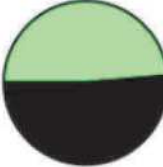


暗所と明所では
暗所を好む


↑ムサシトミヨは暗所を好んでいる

24

結果



緑と黒では
変わらない



緑と白では
緑を好む

22

現在の水槽の様子



25

今後の展望

- ・ 広報活動でムサシトミヨの知名度を向上させる
- ・ ムサシトミヨの繁殖に力を入れる
- ・ 生態を知るための実験



27

3. 今後の展望

ご清聴ありがとうございました



26

28



 SAITAMA / さいたまアワード
みんなで選ぶ
リバサポアワード
授賞式
 令和8年2月14日

1



春日部市カヌー協会

「カヌーで大落古利根川のゴミを拾い環境美化と春日部市のかまちづくり」



古利根川のゴミ問題をきっかけに、毎月2回カヌー清掃や地元の親子に向けた体験教室を実施している。今年8月に国交省から同市へ「大落古利根川かわまちづくり計画」登録証が伝達された。

3



 SAITAMA / さいたまアワード
リバサポアワード
活動部門

2



埼玉県立川越女子高等学校
生物部

「荒川水系の小型エビの研究と準絶滅危種ヌカエビの保全」



カワリヌカエビ属を調査し、2024年から準絶滅危種ヌカエビの保全を開始し、ピオトープでの繁殖を確認した。また、ピオトープにおける月ごとのヌカエビの個体数調査や水質変化の影響について研究している。

4

川竹 AWARD 2025 活動部門 新方川をきれいにする会

「取り戻そう川の笑顔」



この一年間も定期的に「ブラごみ」を中心に新方川両岸の清掃活動を実施した。清掃活動にとどまらず、火災の危険がある枯れ草や、ポイ捨て、不法投棄への注意喚起も行った。今では、新方川に魚類、野鳥も見受けられるようになった。

5

川竹 AWARD 2025 活動部門 ホトケドジョウ調査会 株式会社タムラ製作所坂戸事業所

ホトケドジョウ調査会と合同で生物多様性の取組



タムラ製作所坂戸事業所は、2024年12月から、坂戸市が拠点のホトケドジョウ調査会とともに、絶滅危惧種「A類」であるホトケドジョウの生息調査や生育環境整備、子ども達への教育を行っている。

6

川竹 AWARD 2025 活動部門 明治安田生命保険相互会社 埼玉本部 株式会社Symphony Innovations



埼玉の川の魅力発信！ 親子で知れる・学べる体験イベント

リバサポ全体の盛り上げに寄与できるような「川遊び」「水辺の生き物」「川の安全」をテーマとしたワークショップを企画・実施した。

7

川竹 AWARD 2025 活動部門 やなせ川いかだラリー 実行委員会

川の探検隊 柳瀬川に親しみ、河川やその周辺の自然環境に関心を持つとともに、参加者相互の親睦と交流を図る。



河川氾濫に悩む住民の積極的に河川に関わってほしいという住民意識から、「川の学習会」を発足。環境学習や水質検査を通じ水質改善に貢献し、現在は親子参加型リバーウォッチングを実施。

8



 やなせ川いかだラリー
 実行委員会

やなせ川いかだラリー
 いかだラリーを通じて、柳瀬川に親しみを持ってだけでなく、学習を行い、
 河川の浄化や河川敷の環境改善などについて考え、実践する。



かつて台風の被害に苦しめられていた
 柳瀬川で開催しているやなせ川いかだ
 ラリーは、川の環境改善と地域活性化
 に貢献し、子どもから大人まで楽しめる
 夏の風物詩として定着している。

9



 春日部市カヌー協会



「カヌーで大落古利根川のゴミ
 を拾い環境美化と春日部市
 のかわまちづくり」

11


 リバサポアワード
 活動部門 受賞者



 埼玉県立川越女子高等学校
 生物部



「荒川水系の小型エビの研究と
 準絶滅危惧種ヌカエビの保全」

10



12


活動部門 受賞
新方川をきれいにする会



「取り戻そう川の笑顔」

13


魅力発信部門 (写真)
 「埼玉は川イイ！フォト&動画コンテスト」で選定された入選作品 5 件



15



リバサポアワード
魅力発信部門



魅力発信部門 (動画)

「埼玉は川イイ！フォト&動画コンテスト」で選定された入選作品 5 件



14

16

 **リバサポアワード**
魅力発信部門
受賞作品



17

 **魅力発信部門 (写真) 受賞**



風布川

投稿者：happiness7122023

18

 **魅力発信部門 (動画) 受賞**



荒川 長瀬の風景
投稿者：fur_min

19



リバサポアワード

川の国貢献賞

川の共生・保全に貢献した長年にわたる県民（団体）
・企業の活動に対して県から感謝を伝える賞。

20


川の国貢献賞
**中川やしお子どもの水辺
運営協議会**
**『水辺の楽校で子どもたちの遊びや自然体験など積極的に取り組み、
自然環境の大切さを理解し、心豊かな人間性を育む』**



不法投棄に悩まされた中川周辺を「中川やしおフラワーパーク」として整備し、市民の憩いの場としました。国土交通省、文科省、環境省と協力して開校した「中川やしお水辺の楽校」を中心に、地域住民が水辺に親しみ、防災やレクリエーションなど多様な活動を通じて地域コミュニティを活性化。開校10周年を控え、さらなる活動の発展を目指しています。

21


川の国貢献賞
荒川夢クラブ
『荒川流域の子どもと地域が共に育む、環境保全と交流の未来づくり』



2001年に発足し、20年以上にわたり荒川流域で川の体験活動、清掃、水質・生物調査、外来種駆除などの自然保護活動を実施。幼稚園から高校まで環境教育や国際交流の出前授業を行い、新規団体の活動も支援。地域と子どもたちと共に、環境保全と社会貢献を目指している。

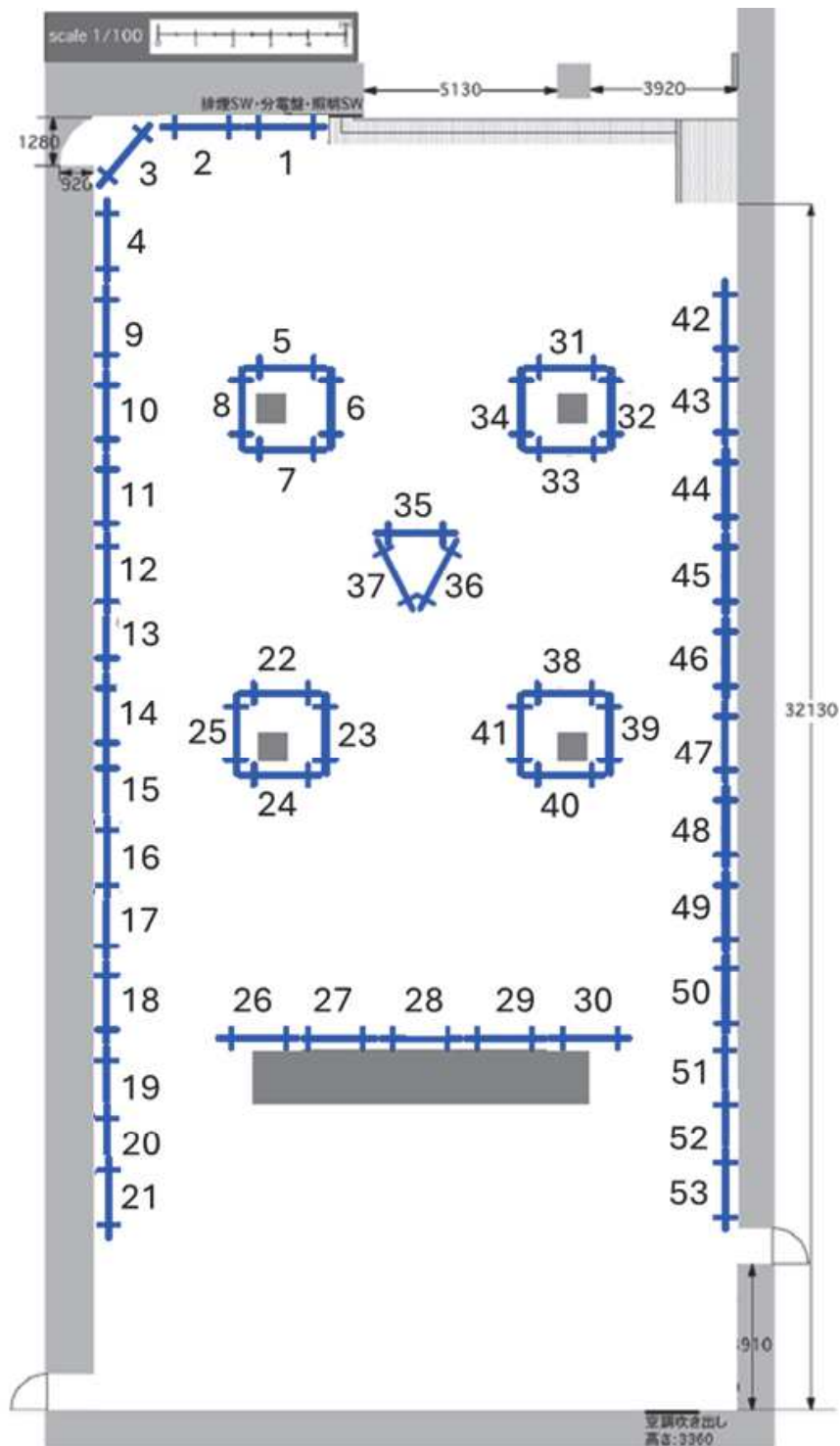
22

第2部 ポスターセッション

■発表数:53

■発表団体:川で活動・研究する42の団体・学校・企業・自治体
(複数発表あり)

■会場配置



■発表団体一覧

≪No.順≫

No.	発表団体
1	埼玉県水環境課(リバサポ)
2	リバサポアワードとは？
3	リバサポアワード 魅力発信部門(動画)
4	リバサポアワード 魅力発信部門(写真)
5	リバサポアワード 魅力発信部門(写真)
6	リバサポアワード 活動部門(新方川をきれいにする会/川越女子高等学校生物部)
7	リバサポアワード 活動部門 (春日部市カヌー協会/株式会社タムラ製作所・ホトケドジョウ調査会)
8	リバサポアワード 活動部門(やなせ川いかなだラー実行委員会)
9	リバサポアワード 活動部門 (明治安田生命保険相互会社 埼玉県本部、株式会社Symphony Innovations)
10	リバサポアワード 川の国貢献賞 (中川やしお子どもの水辺運営協議会/荒川夢クラブ)
11	明治安田生命保険相互会社 埼玉本部
12	株式会社 Symphony Innovations
13	Plus-R
14	埼玉県水環境課
15	一般社団法人 埼玉県浄化槽協会
16	埼玉県環境科学国際センター
17	埼玉県環境科学国際センター、国立環境研究所、海辺つくり研究会、国土技術政策総合研究所、神奈川大学、理化学研究所、東京都環境科学研究所
18	埼玉県環境科学国際センター
19	公益社団法人 日本水環境学会 関東支部
20	千葉工業大学 分子生態工学研究室
21	千葉工業大学 文化会環境科学研究会
22	隅田川流域クリーンキャンペーン実行委員会
23	埼玉県立川の博物館
24	埼玉県環境科学国際センター
25	埼玉県環境科学国際センター、埼玉県水環境課、埼玉県水産研究所、さいたま水族館
26	埼玉県立久喜北陽高等学校 理科部
27	埼玉県立杉戸高等学校理科部
28	埼玉県立越谷北高等学校生物部
29	熊谷女子高等学校 自然科学部
30	栄東中学・高等学校 理科研究部
31	笹目川の環境を守る会
32	比企自然学校
33	「川の日」ワークショップ関東大会実行委員会(事務局 NPO多摩川センター)
34	彩の国環境大学修了生の会
35	吹上清流の会
36	黒目川に親しむ会
37	山室湧水路の清流保全プロジェクト
38	NPO法人熊谷の環境を考える連絡協議会

■発表団体一覧

《No.順》

No.	発表団体
39	ホトケドジョウ調査会
40	ホトケドジョウ調査会
41	ホトケドジョウ調査会
42	戸田の川を考える会
43	戸田の川を考える会
44	特定非営利活動法人荒川クリーンエイドフォーラム
45	荒川夢クラブ
46	熊谷市ムサシトミヨを守る会
47	学校法人シモゾノ学園大宮国際動物専門学校
48	獨協大学経済学部国際環境経済学科「伝右川再生に向けた支援プロジェクト」
49	香川大学 創造工学部 吉田研究室
50	栄東中学・高等学校 理科研究部
51	城西大学理学部化学科環境生命科学研究室
52	城西大学理学部化学科環境生命科学研究室
53	城西大学理学部化学科環境生命科学研究室

■発表団体一覧

≪五十音順≫

※ No.1-10及びNo.14 記載省略

No.	発表団体
45	荒川夢クラブ
15	一般社団法人 埼玉県浄化槽協会
38	NPO法人熊谷の環境を考える連絡協議会
49	香川大学 創造工学部 吉田研究室
47	学校法人シモゾノ学園大宮国際動物専門学校
12	株式会社 Symphony Innovations
33	「川の日」ワークショップ関東大会実行委員会(事務局 NPO多摩川センター)
46	熊谷市ムサシミヨを守る会
36	黒目川に親しむ会
19	公益社団法人 日本水環境学会 関東支部
17	埼玉県環境科学国際センター、国立環境研究所、海辺つくり研究会、 国土技術政策総合研究所、神奈川大学、理化学研究所、東京都環境科学研究所
25	埼玉県環境科学国際センター、埼玉県水環境課、埼玉県水産研究所、 さいたま水族館
16	埼玉県環境科学国際センター
18	埼玉県環境科学国際センター
24	埼玉県環境科学国際センター
23	埼玉県立川の博物館
26	埼玉県立久喜北陽高等学校 理科部
29	熊谷女子高等学校 自然科学部
28	埼玉県立越谷北高等学校生物部
30	栄東中学・高等学校 理科研究部
50	栄東中学・高等学校 理科研究部
34	彩の国環境大学修了生の会
27	埼玉県立杉戸高等学校理科部
31	笹目川の環境を守る会
51	城西大学理学部化学科環境生命科学研究室
52	城西大学理学部化学科環境生命科学研究室
53	城西大学理学部化学科環境生命科学研究室
22	隅田川流域クリーンキャンペーン実行委員会
20	千葉工業大学 分子生態工学研究室
21	千葉工業大学 文化会環境科学研究会
44	特定非営利活動法人荒川クリーンエイドフォーラム
42	戸田の川を考える会
43	戸田の川を考える会
48	獨協大学経済学部国際環境経済学科「伝右川再生に向けた支援プロジェクト」
32	比企自然学校
35	吹上清流の会
13	Plus-R
39	ホトケドジョウ調査会
40	ホトケドジョウ調査会
41	ホトケドジョウ調査会
11	明治安田生命保険相互会社 埼玉本部
37	山室湧水路の清流保全プロジェクト

■ 発表団体一覧

《ポスタータイトル・説明者・概要》

No.	テーマ	活動場所	団体名	ポスターのタイトル	説明者氏名
1	その他	—	埼玉県水環境課(リバサポ)	埼玉県水環境課(リバサポ)	—
リバサポの紹介。					
2	その他	—	リバサポアワードとは？	リバサポアワードとは？	—
リバサポアワードの紹介。					
3	その他	—	リバサポアワード	魅力発信部門(動画)	—
リバサポアワード魅力発信部門(動画)の受賞動画の上映。					
4	その他	—	リバサポアワード	魅力発信部門(写真)	—
リバサポアワード魅力発信部門(写真)の受賞写真の展示。					
5	その他	—	リバサポアワード	魅力発信部門(写真)	—
リバサポアワード魅力発信部門(写真)の受賞写真の展示。					
6	その他	—	リバサポアワード	活動部門(新方川をきれいにする会/川越女子高等学校生物部)	—
リバサポアワード活動部門受賞者。					
7	その他	—	リバサポアワード	活動部門(春日部市カヌー協会/株式会社タムラ製作所・ホトケドジョウ調査会)	—
リバサポアワード活動部門受賞者。					
8	その他	—	リバサポアワード	活動部門(やなせ川いかだラリー実行委員会)	—
リバサポアワード活動部門受賞者。					
9	その他	—	リバサポアワード	活動部門(明治安田生命保険相互会社 埼玉県本部・株式会社Symphony Innovations)	—
リバサポアワード活動部門受賞者。					
10	その他	—	リバサポアワード	川の国貢献賞(中川やしお子どもの水辺運営協議会/荒川夢クラブ)	—
リバサポアワード川の国貢献賞受賞者					
11	その他	全県	明治安田生命保険相互会社 埼玉本部	「リバサポアワード」の歩み	明治安田生命保険相互会社 埼玉本部
今年度は新たにベジチェックを実施。更にこれまでの当社におけるリバサポの取組についてご紹介いたします。					
12	その他	県外	株式会社 Symphony Innovations	PORT(=港)プロジェクト	株式会社Symphony Innovations
株式会社Symphony Innovationsが手がける「PORTプロジェクト」が提供するサービスの紹介。 1. セカンドキャリア・サードキャリアの「ステージ」づくり 2. '感じて動く' テーマを持ったイベントづくり 3. 多彩な'才能×キャリア' 紹介 4. '安全を最優先する文化' づくり					
13	生物	全県	Plus-R	川の水中写真家 Saitama_Underwater	市塚 徹
【海なし県埼玉にもある素敵な水中風景】をテーマに川の水中写真を撮影しています。埼玉県内を流れる川の中上流域での水中生物や半水面の撮影。特別な許可を得てムサシトミヨ・ムジナモの撮影を行っています。					

■発表団体一覧

《ポスタータイトル・説明者・概要》

No.	テーマ	活動場所	団体名	ポスターのタイトル	説明者氏名
14	水質	全県	埼玉県水環境課	浄化槽の維持管理について	埼玉県水環境課
浄化槽の3つの維持管理(保守点検・清掃・法定検査)のご紹介。					
15	水質	全県	一般社団法人 埼玉県浄化槽協会	埼玉県浄化槽協会の紹介	一般社団法人 埼玉県浄化槽協会
浄化槽の普及推進や浄化槽の製造、施工、保守点検、清掃の適正化を図り、県民の生活環境の保全と公衆衛生向上の寄与を目的に、埼玉県浄化槽協会が実施している取組、事業を紹介する。					
16	生物 水質	全県	埼玉県環境科学国際センター	埼玉県環境科学国際センター水環境担当の活動紹介	埼玉県環境科学国際センター
埼玉県環境科学国際センターは、学習施設と研究所が一体となった環境科学の中核機関です。当センターの環境学習に関する講座やイベントの紹介、水環境に関する調査研究事例の紹介を行います。					
17	生物	県外	埼玉県環境科学国際センター、国立環境研究所、海辺つくり研究会、国土技術政策総合研究所、神奈川大学、理化学研究所、東京都環境科学研究所	沿岸環境・生態系デジタルツインに関するプロジェクト研究の紹介	埼玉県環境科学国際センター 見島 伊織
環境省の環境研究総合推進費課題として「沿岸環境・生態系デジタルツインの開発と実践」と題した共同研究を進めています。本研究の内容について紹介いたします。					
18	生物	県西	埼玉県環境科学国際センター	川の感動♥体験in東松山	田中 仁志
令和7年7月、県内小学生を対象に東松山市都幾川で実施した川の生き物調査体験と生き物カードゲームの様子を報告します。					
19	その他	県外	公益社団法人 日本水環境学会 関東支部	公益社団法人 日本水環境学会 関東支部	公益社団法人 日本水環境学会 関東支部
当支部では、良好な水環境の保全及び創造、並びに学術文化の発展を目指し、関東地区における水環境に関する分野の学術的調査・研究の推進及び知識の普及のための活動を行っています。					
20	生物	県外	千葉工業大学 分子生態工学研究室	底生生物および付着珪藻による河川環境評価	千葉工業大学 分子生態工学研究室
千葉県南部における河川環境の評価および千葉県版河川環境マップの作製にあたって、季節変化による底生生物および付着珪藻の総数や優占種に着目し、河川環境に変化が生じるかについて行っている調査の現状発表。					
21	水質	県外	千葉工業大学 文化会環境科学研究会	西印旛沼における水質調査結果の報告(2012～2025)	千葉工業大学 文化会環境科学研究会
千葉県の水道水源であり富栄養化の進行した湖沼として知られる印旛沼(千葉県印西市)を実際に調査し、水質調査を通して今の自分たちに何ができるかを考える。					
22	その他	県外	隅田川流域クリーンキャンペーン実行委員会	隅田川クリーン大作戦	伊藤 浩子
2005年から隅田川のテラス約6kmを4ルートに分かれ、清掃活動を市民が中心に行っています。周辺の自治体や企業等から協賛、協力をいただき、2025年は第18回。清掃活動を通じて、川沿いの景観、文化・歴史などに触れ、隅田川への愛着を高めています。その様子を紹介いたします。					
23	生物	県西	埼玉県立川の博物館	トウキョウサンショウウオの生息地再生活動	藤田 宏之
厳しい環境に置かれている東松山市南部のトウキョウサンショウウオ生息地の環境整備・再生活動を紹介します。					
24	防災	全県	埼玉県環境科学国際センター	身近な水資源をまもることの重要性について	柿本 貴志
内閣官房水循環政策本部事務局が令和7年3月に策定した災害時地下水利用ガイドラインについて紹介する。地域の水資源(河川水、地下水、湧水)等をまもり、親しむことの重要性を災害時対応の実態から述べる。					
25	生物	全県	埼玉県環境科学国際センター、埼玉県水環境課、埼玉県水産研究所、さいたま水族館	見えない魚を「水」から探る ー科学と地域がつくる河川の未来ー	埼玉県環境科学国際センター 木持 謙
魚の姿を「水」から読み解く新しい調査技術「環境DNA分析」で、県内の川のおおきなマップを作り、公開しています。見えないいのちを知り、地域とともに埼玉の川を未来に伝えます。					
26	生物	県東	埼玉県立久喜北陽高等学校 理科部	久喜北陽高校周辺の用水路に生息する生物の生態	埼玉県立久喜北陽高等学校 理科部
久喜北陽高校周辺の用水路を3つのポイントに分け、それぞれの植生や水質、生態系などを一定期間調査し、各ポイントの違いについて、データをまとめて考察し、発表する。					

発表団体一覧

《ポスタータイトル・説明者・概要》

No.	テーマ	活動場所	団体名	ポスターのタイトル	説明者氏名
27	水質	県東	埼玉県立杉戸高等学校理科部	大落古利根川の水質調査ver3	埼玉県立杉戸高等学校理科部
通学路途中にある大落古利根川に対して季節や気候による水質、水量の変化に興味を持ち、調査を実施している。					
28	生物	全県	埼玉県立越谷北高等学校生物部	東秩父村槻川の動植物総合調査(チームアライグマ合同調査報告)	内海 奏汰、大熊 凌、金子 蒼輔、永澤 志保、二ノ宮 大知
チームアライグマは、生物多様性の保全を目的とした活動を行う埼玉県内の高校自然科学系部活動による合同研究グループである。2025年6月1日に東秩父村槻川で実施した合同調査において記録された動植物について報告する。					
29	生物	県北	熊谷女子高等学校 自然科学部	熊谷女子高校自然科学部の活動について	熊谷女子高校自然科学部
熊谷女子高校自然科学部では3年前からムサシトミヨの保護活動の一環として飼育を行っています。県の魚にも指定されているムサシトミヨは熊谷市を流れる元荒川にのみ生息しています。熊女が取り組むムサシトミヨについての研究発表を行います。					
30	水質	県東 県南	栄東中学・高等学校 理科研究部	芝川上流～下流の水質調査の結果を踏まえた鳩ヶ谷大橋周辺における窒素等の急増加とプランクトン数の推移について	平田 璃音、古里 優磨、宗像 宏樹、藪田 清一郎、魚川 優太、八木 里磨
芝川上流～下流の6地点において、毎年1～2回実施している水質の一斉縦断調査を2025年度も7月に実施した。これまでの一斉縦断調査の結果を踏まえ、2025年7月には川口市の鳩ヶ谷大橋周辺を対象に水質の追加調査をおこなった。これらの結果(鳩ヶ谷大橋周辺部の窒素等の急増加、プランクトン数)について発表をする。					
31	その他	県南	笹目川の環境を守る会	笹目川の環境を守る会の活動	笹目川の環境を守る会
笹目川の環境を守る会は、平成17年の設立以来、笹目川の清掃活動、水質調査、生きもの調べ等自然観察会の開催、環境保全意識の啓発活動に取り組んでいる。活動のあらましを紹介する。					
32	文化	県西	比企自然学校	比企自然学校「川の学校」	桜井 行雄
比企自然学校は2011年設立以来「川の学校」で自然体験学習(生き物調べ、川遊び)に取り組み、カヌー工房を立ち上げ自分たちで使うカヌーはすべて手作りしています。主に活動している都幾川は河川改修工事が進み、活動再開できる環境が整いつつあります。					
33	その他	県北	「川の日」ワークショップ関東大会実行委員会(事務局 NPO多摩川センター)	第18回「川の日」ワークショップ関東大会in本庄 早稲田【参加募集】	塚 かなえ
「川の日」ワークショップ関東大会は、川や水辺で活動する世代、地域、立場を超えた交流や情報共有、とくに学生や子ども達の発表、応援の場としても開催しています。身近な川や用水、池沼など多様な水辺、テーマの取り組みの発表、参加を募集します。					
34	生物 水質	県南	彩の国環境大学修了生の会	水辺の自然観察会&水質調査学習活動	彩の国環境大学修了生の会
当団体は県主催の「彩の国環境大学」修了生の有志が1998年設立以来、特に水辺の生物多様性(自然観察会での生き物調査&自然体験学習等)及び水質調査学習など会員が学んだ知識や経験を活かした環境活動の取り組みを紹介します。					
35	文化	県北	吹上清流の会	みんなで育てようチャレンジする子！ 環境に関心もてる子！	間 加奈子
①吹上清流の会は2019年11月夫婦で散歩しながらのゴミ拾いがスタートでした。今は、吹上地区の子供や住民を中心に毎月第二土曜日午前中に清掃活動しています。1月はゴミ拾いしながらのロゲイニング大会、9月はコブ白鳥カップ(ポートルース)。 ②お昼からは川辺にメンバーのピアニストと都内より音大生たちが演奏に来てくれ、地域住民の楽しみのひとつになっています。春と秋にチャレンジコンサートを開催。					
36	生物 水質 防災 文化	県南	黒目川に親しむ会	黒目川の川づくり	黒目川に親しむ会
川づくり活動として、川まつり、魚とり教室、アユを増やす川耕し、定例魚類調査、水質調査、川ゴミ調査、小学生幼稚園の川教室等です。					
37	生物	県南	山室湧水路の清流保全プロジェクト	絶滅の危機が近い、富士見市のホトケドジョウ	守山 義一
県RDB動物編2018に搭載されたホトケドジョウが、ハゼ科ウキゴリ類の侵入により、危機的現状を紹介する。					
38	その他	県北	NPO法人熊谷の環境を考える連絡協議会	荒川の恵みと熊谷を考える集い	江原 仁
これまで28年間継続してきた活動のまとめについて報告します。					

■発表団体一覧

《ポスタータイトル・説明者・概要》

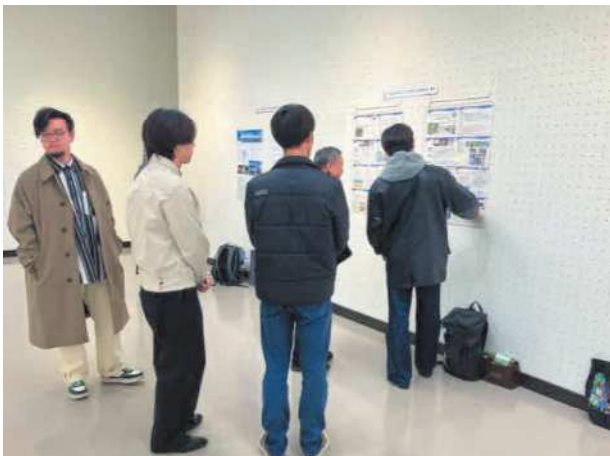
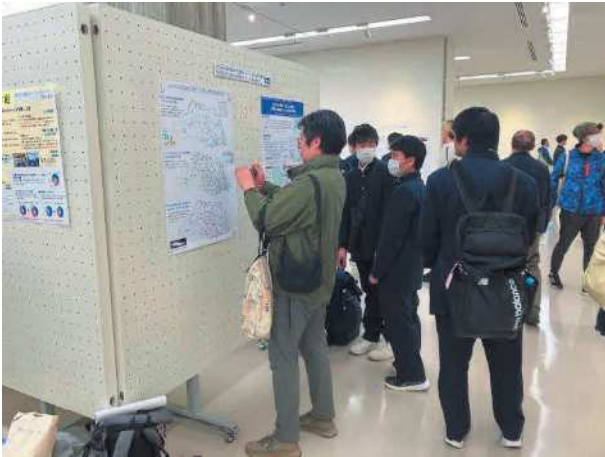
No.	テーマ	活動場所	団体名	ポスターのタイトル	説明者氏名
39	生物	県西	ホトケドジョウ調査会	ホトケドジョウ調査会の活動	稲垣 喜弘
「ホトケドジョウ調査会」は、坂戸及び日高市内で生息が確認されたホトケドジョウの越辺川流域の調査をとおして、ホトケドジョウやその生息環境を理解し、保全の意識を醸成し、成果を地域に還元することを目的として活動している。2025年度活動のあらましを紹介する。					
40	生物	県西	ホトケドジョウ調査会	ホトケドジョウ調査会の活動	稲垣 喜弘
ホトケドジョウ調査会は、2021年から坂戸及び日高市内で生息が確認されたホトケドジョウの越辺川流域の調査をとおして、ホトケドジョウやその生息環境を理解し、保全の意識を醸成し、成果を地域に還元することを目的として活動しており2025年度の活動状況を紹介する。					
41	生物	県西	ホトケドジョウ調査会	越辺川流域に生き残ったホトケドジョウ	稲垣 喜弘
地域連携、モニタリング、保全活動、環境教育をキーワードに活動した今年度の結果報告をする。					
42	水質	全県	戸田の川を考える会	浄化槽のマナー	戸田の川を考える会
浄化槽のマナーについて。					
43	その他	県西	戸田の川を考える会	荒川の源流	戸田の川を考える会
日本の源流で最も美しい源流。					
44	その他	全県	特定非営利活動法人荒川クリーンエイドフォーラム	気候変動下の荒川クリーンエイド埼玉県会場は	林 美恵子
地球温暖化、気候変動の影響が、猛暑や台風の多発で荒川クリーンエイド会場が中止・延期になることがある中、埼玉県各会場の頑張っているようすを紹介する。					
45	その他	全県	荒川夢クラブ	気候変動下の川の活動は	林 美恵子
地球温暖化、気候変動の影響が、猛暑や台風の多発で川のゴミ拾い、子供たちの川の体験活動や調査活動などが中止となることがある中、活動の継続を目指しているようすを紹介する。					
46	生物	県北	熊谷市ムサシミヨを守る会	ムサシミヨの繁殖取組および水中画	熊谷市ムサシミヨをまもる会 会員
水中画(ムサシミヨ)、学校関係活動・取組、未来につながる活動。					
47	生物	県南 県北	学校法人シモゾノ学園大宮国際動物専門学校	大宮国際動物専門学校が行っているムサシミヨの保全活動や継代繁殖活動の報告	大宮国際動物専門学校 ムサシミヨ管理チーム
①大宮国際動物専門学校の自然環境・動物飼育学科では、例年、埼玉県指定の天然記念物である熊谷市のムサシミヨ生息地にて、ムサシミヨをまもる会と連携し、環境整備や美化活動を行っている。2025年度も行ったので、その活動の発表をする。 ②大宮国際動物専門学校ではムサシミヨの飼育及び繁殖を行い、普及活動やムサシミヨの生息域外保全を行っている。その中でも繁殖について、当校では水族館等の施設以外では極めて成功例が少ない、「水槽内での継代」に成功しており、今年度も、継代に成功しているので、生体展示と併せて発表をする。					
48	水質	県南	獨協大学経済学部国際環境経済学科「伝右川再生に向けた支援プロジェクト」	伝右川再生に向けた支援プロジェクト活動報告	松森 智久
①「伝右川再生に向けた支援プロジェクト」は2025年度も、伝右川のゴミ拾い活動、水質調査、生きもの調査、カヌー体験会を実施した。これらの活動の概要を報告する。 ②2024年度と2025年度、草加市立花栗南小学校5年生に「ふるさと草加学習」の一環として「伝右川」をテーマにした授業に協力した。この授業協力に関して報告する。 ③「第11回 伝右川再生会議2025」について報告する。 ④川口市役所、草加市役所から提供いただいた、伝右川流域の川口市、草加市の地区ごとの汚水処理人口に関するデータをもとに、生活排水の処理に関する実態について発表する。					
49	水質	県外	香川大学 創造工学部 吉田研究室	廃棄牡蠣殻由来の吸着材開発と吸着能の検討	吉田 秀典
廃棄牡蠣殻由来の吸着材開発と吸着能の検討についての説明。					
50	生物	県東 県南	栄東中学・高等学校 理科研究部	芝川中流(さいたま市宮後橋付近)の川岸における2025年夏～秋の植生	野中 陽仁、中森 遼太郎、 星野 幸仁、室井 帆貴、 荒井 賢一
芝川中流(さいたま市の宮後橋の周辺地域)において、2025年7月下旬及び10月上旬の2回、川岸の陸地に分布する植生の調査をおこなった。調査をおこなった複数の地点に共通して、カナムグラやアレチウリ等の分布が確認された。この地域の植生の分布と考えられる原因などについて発表をおこなう。					

■発表団体一覧

《ポスタータイトル・説明者・概要》

No.	テーマ	活動場所	団体名	ポスターのタイトル	説明者氏名
51	生物	県南	城西大学理学部化学科環境生命科学研究室	環境DNA分析を用いたトウキョウサンショウウオの生息地の探索	春名 雄斗
<p>本研究室では、環境DNA分析を用いて水圏生物の研究を行っている。 本発表では、トウキョウサンショウウオ特異的プライマー・プローブセットを開発し、本種の生息地の探索を行っている途中経過について報告する。</p>					
52	生物	県外	城西大学理学部化学科環境生命科学研究室	生息地下流の沢でのツクバハコネサンショウウオ環境DNA捕集の試み	鈴木 裕貴
<p>本研究室では、環境DNA分析を用いて水圏生物の研究を行っている。アクセスの良い下流域での採水によって上流部にツクバハコネサンショウウオが生息しているか否かを判定すべく、希少種の環境DNA捕集について様々な方法を試している。現在までの取り組みと結果について報告する。</p>					
53	生物	県外	城西大学理学部化学科環境生命科学研究室	小・中学校での環境教育に利用可能な現場でのアベサンショウウオ	小暮 雄仁
<p>本研究室では、環境DNA分析を用いて水圏生物の研究を行っている。 小・中学校での環境教育に利用できるような簡易・迅速・安全な分析手法を開発し、現場でアベサンショウウオが生息するか否かを判定できる分析系の試みについて報告する。</p>					

■ポスターセッションの様子



第3部 分科会

分科会	タイトル	会場
1	<p>「川ゴミ」 分科会</p> <p>プラスチックごみの現状と課題、市民への啓発 運営委員：江原仁、柳沢忠、林美恵子</p>	5C 会議室
2	<p>「川と防災」 分科会</p> <p>川と自然災害、市民の防災活動 運営委員：大塚克也</p>	5D 会議室
3	<p>「豊かな水辺空間づくり」 分科会</p> <p>河川利用、親水、川づくり 運営委員：小林一己、堺かなえ</p>	5B 会議室
4	<p>「水辺の生物」 分科会</p> <p>水辺の生き物の調査研究、保護、環境学習 運営委員：守山義一、小林光春、藤田宏之</p>	7A 会議室
5	<p>「水質改善」 分科会</p> <p>河川や湖沼の水質調査、改善 運営委員：大石昌男、角田道郎、幾島淑美</p>	7B 会議室

■分科会会場マップ



第1分科会：「川ゴミ」分科会報告 2/14 14:00～16:10

- 参加者：草加市カヌー協会、埼玉県立杉戸高校理科部、荒川夢クラブ、川爺、熊谷の環境を考える連絡協議会、春日部市カヌー協会、笹目川の環境を守る会、獨協国際大学環境経済学科米山ゼミ、隅田川流域クリーンキャンペーン実行委員会、彩の国環境大学修了生の会、幸手市民環境ネット、個人 の合計13名
- 運営委員： 司会進行：江原 仁（熊谷の環境を考える連絡協議会）
書記：林 恵美子（荒川夢クラブ）、柳沢 忠（笹目川の環境を守る会）

1. 事例発表

(1) 「荒川の恵みと熊谷を考える集いについて」

（発表：熊谷の環境を考える連絡協議会 江原仁さん）

- ・毎年11月の第2日曜日に実施。昨年が第28回のイベントであった。
 - ・荒川河川敷に6か所集合場所を設け、ゴミを拾っている。昨年の参加者は約630名であった。ゴミ回収量は不燃ゴミ可燃ゴミ合わせて約400kgであった。
 - ・ゴミの種類と数を確認しているが、昔と比べゴミの量は減っている。ゴミの発生をおさえ、ゴミのない社会を目指している。
 - ・マイクロプラスチック問題があり、平成30年からペットボトルの数も数えている。
 - ・熊谷では、熊谷市発行の「クマボポイント」を参加者に付与してくれており、参加意欲を上げるきっかけになっている。
 - ・課題としては、スタッフ不足、専門家不足があり、若い会員を増やしたい。
- （質問）マイクロプラスチックの調査費用はどうしたのか？
（回答）調査費用を出してくれる会社があったため、専門的な調査を実施することができた。

(2) 「隅田川クリーン大作戦のご紹介」

（発表：隅田川流域クリーンキャンペーン実行委員会、伊藤浩子さん）

- ・20年間継続している事業である。主な参加者は企業、諸団体。その他学生、個人などである。
 - ・2025年に第18回を開催、228名が参加した。
 - ・ゴミの量は少なくなっているが、植栽の中や干潮域にゴミが多い。
 - ・4コースに分かれて川沿いを歩き、ゴール地点で参加者自身がゴミの仕分けを行っている。
 - ・全国川ゴミネットでは、水辺のごみ見つけ！参加者を大募集している。
 - ・調査の結果から、ペットボトルは、全国の河川に4000万本散乱していると推定される。
 - ・有料化の影響でレジ袋は減る傾向にある。ペットボトルは減らない。
 - ・ゴミのクイズや川の見どころマップ（歴史や文化を網羅）を参加者に渡すという工夫をしている。
- （質問）東京と埼玉の活動の違いについて
（回答）埼玉では地域住民の皆さんが参加しているが、東京というより隅田川の場合は、近隣企業など東京への勤務者が多い。



2. 質疑応答

分科会参加者に順番に活動状況や意見、質問等を話していただき、全員でフリーディスカッションを行った。その内容をいくつかに分けてまとめた。

(1) 河川のゴミ拾いを行う際の問題点

- ・垂直護岸では危険であり、カヌー等は入れずゴミが拾えない。
- ・足立カヌー協会では、地元の自治体から護岸のカギが借りられず川に入れない。埼玉の自治体の方が協力的である。
- ・潮の干満の関係でゴミが行ったり来たりしていつまでもなくなる。
- ・カラスがごみ置き場のゴミを荒らして、それが川に入っている。
- ・高校大学で河川や環境に取り組んでいる若い人たちが、社会人になっても活動を進めてほしい。
- ・川ゴミの取り組みとしても、高齢化が進んでおり、若手にどうつなげるかが問題である。

(2) 活動を続ける秘訣は

- ・草加市カヌー協会では活動12年目であり、週3日清掃を行っている。参加者は自然に集まってくる。ゴミ拾いは楽しいので、週3日でも来てくれる。
- ・春日部パドラーズでもカヌーでゴミを回収している。

(3) 川にゴミ箱は必要か

- ・川にゴミ箱を置いてほしいという意見が出たため、それに対し多くの意見が出た。
- ・ゴミ箱がない方が、ゴミが減るという意見もある。
- ・ゴミ箱があっても川にごみを捨てる人もいる。
- ・ゴミは減ってきており、川ゴミではマナーの問題が重要だが、マナーは良くなってきていると思う。ゴミは持ち帰るという意識をみんなが持つことが大切である。ゴミ問題は心の問題である。
- ・車からのポイ捨てや、ゴミ置き場から川にゴミが入っている。
- ・川近くのゴミ置き場には、きちんとネットをはるか、撤去する必要がある。

(4) 川ゴミの回収についての行政への要望

- ・自治体から鍵を借りることができないため、川に入れずゴミを拾えないところがある。入れるようにしてほしい。

- ・農業用水で季節によりゴミの水量が減って、ヘドロやゴミでいっぱいになっている。行政で泥をとってほしい。
- ・対応してくれているところもあるが、上流からゴミが入らないようにしてほしい。
- ・環境森林税をうまく使ってほしい。
- ・管轄の国や県に川のゴミを回収してもらいたい
- ・県や市の排水機場でゴミが荒川本流に行かないように配慮してくれているところ（芝川）もある。
- ・行政の水面清掃船について、情報提供があった。
- ・ゴミが積み重なって層になっているところがある。
- ・遊歩道にはゴミが少ないが、水際にはゴミが多いところがある。
- ・東京から埼玉に流れてくるゴミが多いように見えたが、東京都は川の浮遊ゴミを回収していた。野火止用水のゴミは、実は新座市内のゴミであった。市の上流にフェンスを作ってもらったらゴミが減り、きれいになった。（フェンスにたまるゴミは、市が回収している。）

(5) ゴミを拾う以外の方法で川をきれいにできないか

- ・ゴミを捨てる人には罰金を取るという条例が必要ではないか。
- ・不法投棄は警察がもっと取り締まるべきである。
- ・河川パトロールを警察にお願いしてはどうか。
- ・警察が一度でも不法なゴミ捨てを処罰したら、ゴミのポイ捨てが減るのではないか。
- ・行政による規制も必要だが、取締る余力がない。市民の自覚も必要である。

(6) ゴミ捨てのルールについて

- ・蔵には川はないが、私の家の前のゴミ置き場にルールを守らずゴミを捨てていく。
- ・祭りの前より後の方が道路がきれいになっている。
- ・小さな店の前はきれいにしているが、大企業になるほどゴミ拾いをやっていない。
- ・ゴミは市民が拾う、ゴミによっては自治体に任せるなどケースバイケースの対応が必要である。

(7) プラスチックゴミについて

- ・ペットボトルは以前は大型飲料容器だけだったが、小さいものにも使えるようになると、ほとんどがペットボトルになり、ゴミが増えてしまった。
- ・プラスチックゴミをきちんと資源化しているのか、その事情や背景について知りたい。
- ・ペットボトルのリサイクルには、再度ペットボトルにする方法や、細かくして素材に戻す方法等がある。
- ・ペットボトルを資源化する際に、エネルギーを必要とするものもある。
- ・ペットボトルを使わなくて済むライフスタイルにしていけると良い。
- ・マイクロプラスチックの害が出てきているのか、海鳥等への影響はないのか？
- ・現状では、有害物質の生物内での濃縮の影響はまだはっきりしていないようである。
- ・環境センターの燃焼温度を1000℃以上に上げて完全に焼却できるように改善してほしい。さいたま市ではこれを実現しているが、他の自治体では費用がかかるため、まだ実現していない。

(8) ホタルの再生について

- ・野火止用水、平林寺のところでゲンジボタルの再生を目指している。ここもゴミが多かったが、近年だいぶ改善されてきた。
- ・ゲンジボタルでは餌としてカワニナが必要であり、水をきれいにする必要がある。
- ・水質調査を通じて、野火止用水のゲンジボタルのPRをするとよい。
- ・野火止用水のゴミが柳瀬川に入ってくることもある。
- ・京都では昔皇室にホタルを献上していたが、いなくなってしまう。このホタルの復活を目指しており、ゴミを捨てようとする周囲の人から注意される。住民がきれいにしようとして町がよみがえった例もある。
- ・川ごみの取り組みとしても、高齢化が進んでおり、若手にどうつなげるかが問題である。

3. まとめ

第1分科会「川ゴミ」は、最も身近な環境からできることのテーマであり13名が参加した。各団体から、日頃から実践している活動内容や疑問に思っていることについて発表していただき、有意義な意見交換ができたと思う。

正解が出ない問題も多く、住民のマナーに任せるところもあるが、これからも川ゴミを減らす活動をあきらめず、このような活動を進めていくことが大切であるということが皆さんの共通する意見であった。

活動する人の高齢化が進み、後継者不足の問題がある。高校や大学で河川や環境に取り組んでいる若い人たちが、今後社会人になっても川ゴミ削減の活動を続けていってほしいと考えている。



以上

第2分科会「川と防災」報告書

大塚克也

近年、台風や線状降水帯による大雨が洪水を引き起こし、住民の生活に影響を与えている。今回の第2分科会では、マイ・タイムラインの作成と要配慮者の避難を参加者全員で考えてもらうように会を設定した。

1 参加者 3名

2 マイ・タイムラインの作成

マイ・タイムラインは、河川の氾濫が起きそうな時に、余裕をもって逃げるために事前に考えておく、一人ひとりの生活に合った、オリジナルの避難行動計画である。国土交通省が考案した「逃げキッド」を活用し、大雨が降り、川が氾濫するまでの一連の流れの中で、家族の基本情報、発信される情報を把握し、どこへ避難するか、どのタイミングで避難するかを考え、避難に備える。

演習ということで、架空の家族が避難する。及び令和元年台風19号のデータを活用し、マイ・タイムラインの作成に取り組んだ。



作成手順の説明・記入

①～⑨は、架空家族の関連情報

- ①指定河川洪水予報が基本
- ②警戒レベルとは
- ③家族の基本情報
- ④洪水ハザードマップからの基本情報
- ⑤居住地周辺の河川（流域）はどこか
- ⑥洪水ハザードマップからの基本情報
- ⑦浸水継続時間（荒川）マップからの基本情報
- ⑧家屋倒壊等氾濫想定区域（荒川）マップからの基本情報
- ⑨居住地の気象観測所はどこか
- ⑩～⑬は、一般的な情報
- ⑩雨の強さと降り方

マイ・タイムライン 作成日 年 月 日

雨や川の状況	行政からの情報	調べる・記入する ()に文字や数字、口に✓
<p>台風や線状降水帯が接近</p> <p>今、居住地に降っていないから、よまで寝が済んでいる。いまだ雨は降る可能性があるのでは</p> <p>台風や線状降水帯が接近し、大雨が降り始める</p> <p>文字や情報は、自分で調べることがある。</p>	<p>台風や線状降水帯情報</p> <p>警戒レベル1</p> <p>早期注意情報</p> <p>警戒レベル2</p> <p>大雨注意報 (月 日)</p> <p>洪水注意報 (月 日)</p>	<p>調べる・記入する ()に文字や数字、口に✓</p> <p>基本情報</p> <p>自宅住所</p> <p>建物 <input type="checkbox"/>木造 <input type="checkbox"/>鉄筋コンクリート <input type="checkbox"/>その他</p> <p>階数(地上/地下) <input type="checkbox"/>1階 <input type="checkbox"/>2階 <input type="checkbox"/>3階 <input type="checkbox"/>4階以上</p> <p>家族 (氏名・年齢)</p> <p>内妻(氏名・年齢) (歳) (歳)</p> <p>内子供(氏名・年齢) (歳) (歳)</p> <p>内ペット(数) (匹) (匹)</p> <p>居住地域の500m圏内 (有り) (無し)</p> <p>居住地域の1km圏内 (有り) (無し)</p> <p>居住地域の最大浸水深 () m</p> <p>居住地周辺の浸水継続時間 () 時間</p> <p>居住地周辺の浸水継続時間 () 時間 <input type="checkbox"/>ある <input type="checkbox"/>ない</p> <p>居住地周辺の気象観測所 (有り) (無し)</p> <p>居住地周辺の気象観測所 (有り) (無し)</p> <p>避難継続時間 <input type="checkbox"/>30分未満 <input type="checkbox"/>30分以上 <input type="checkbox"/>1時間 <input type="checkbox"/>1時間以上</p>
<p>心算で安全な避難</p> <p>指定河川洪水予報が基本</p> <p>警戒レベルとは</p> <p>家族の基本情報</p> <p>洪水ハザードマップからの基本情報</p> <p>居住地周辺の河川（流域）はどこか</p> <p>洪水ハザードマップからの基本情報</p> <p>浸水継続時間（荒川）マップからの基本情報</p>	<p>早期注意情報</p> <p>早期注意情報</p> <p>大雨注意報 (月 日)</p> <p>大雨特別警報 (月 日)</p> <p>洪水注意報 (月 日)</p>	<p>避難の準備が完了する</p> <p>避難</p> <p>安全な場所へ</p> <p>避難</p> <p>避難</p>
<p>避難行動要請</p> <p>浸水が想定される前に、安全な場所へ避難</p>	<p>早期注意情報</p> <p>早期注意情報</p> <p>警戒レベル3 避難指示</p> <p>必ず避難</p>	<p>避難</p> <p>安全な場所へ</p> <p>避難</p> <p>避難</p>
<p>避難が完了</p> <p>安全な場所へ</p>	<p>早期注意情報</p> <p>早期注意情報</p> <p>警戒レベル4 避難指示</p>	<p>避難</p> <p>安全な場所へ</p> <p>避難</p> <p>避難</p>

⑪浸水域の区分

⑫避難の際に最低限必要なもの

【⑬～⑰】 令和元年台風19号の情報

⑬台風19号進路予想

⑭期間最大1時間降水量

⑮観測地点による期間最高水位 荒川

⑯期間に発表された大雨警報・注意報の推移

⑰期間に発表された洪水警報・注意報の推移



参加者は、様々な情報を「逃げキッド」に記入し、どの警戒レベルで、どの場所に避難したらよいか考え、いざという時に備えていた。

3 「みんなで考えよう」要配慮者の避難

課題

① 要配慮者が困っていると思われること。

② 困っている要配慮者に、どのような支援を行ったらよいか。

をKJ法を用いて、参加者の考えをまとめる。



3名1組を、1チームとして取り組んだ。KJ法を説明しないで、開始したため作業に手間取る場面が見られた。誰もが知っているとは限らないので、今後KJ法を行う機会があれば、やり方を説明して取り組んでもらうようにする。要配慮者が困っていること、これに対して支援をどう行うか、うまくまとめることができなかったが、参加者同士で避難に関して、適切なコミュニケーションを図ることができた。



第三分科会 川のにぎわい

時間 14:00～16:00

運営者 小林一己(埼玉河連) 堺かなえ(全国水環境連絡会) 県職員2人

参加者 19人 栄東高校2人 杉戸高校3人 比企自然学校3人、黒目川に親しむ会8人
大落古利根川れくれく隊1人、綾瀬川を愛する会1人、新座市1人



活動報告

(1) 県立杉戸高校 理科部7人 大落古利根川の水質調査

月に1回大落古利根川とその流入河川で採水し下記7項目を測定している。

COD(化学的酸素要求量)
BOD(生物化学的酸素要求量)
全窒素
リン
pH
水温
透視度



2023年から月に1回大落古利根川とその流入河川で採水し下記7項目を測定している。

COD(化学的酸素要求量)、BOD(生物化学的酸素要求量)、全窒素、リン、pH、水温、透視度、マイクロプラスチック調査。

2023年から埼玉県環境科学国際センターの指導、2024年から東洋大学理工学部と協定
埼玉県科学教育振興店展覧会分野別審査優良賞3年連続受賞、杉戸町アースデー参加。

質問 水質データ、変化はどうなっているか。
→2023年から調べているだけ。県のデータくらい。他のデータはない。

質問 アースデー参加では何をしていますか。
→ポスターで活動紹介。川をよくすることを話し合っている。

質問 マイクロプラスチックはどうやって調べていますか。
→川で底泥を採泥し、土砂を洗い流し、5mm以下の残留物をふるい分け、それに染色液体をかけて、ブラックライトを当てると、プラスチックだけ光る。それを数えて、多い少ないの比較をする。東洋大理工学部に研究室で行っている。



(2) 私立栄東高校 理科研究部 2年生 4人 芝川の植生・土壌生物調査

(植生調査)

1km毎に河岸から1m離れた地点に一辺2mの正方形を作る。正方形内部の植物の種類、被度・群度を調べて記録する。(表-1)
今回の調査において被度・群度は(図-4)のように階級を区切っている。



図-1 植生調査を行った地点 赤い点は調査地点
下流から順に地点-1から地点-6
出典 地理院地図

2025年夏、芝川6地点の植生と土壌生物を調査。多くの地点でアレチウリ、カナムグラ確認。オオブタクサは右岸のみ。土壌調査したとき、草刈り後で刈り取られた草が雨で湿っていた。土壌からはトビムシ確認、場所により多いことも。ダニ、ヒメミズの多い、少ない地点あり。

考察として、土壌pH6-7ヒメミズ、同5-7.5トビムシ、同5-6.5ダニ、同6-8カナムグラ、pHにより生物の違いあり。

窒素分の多い地点はカナムグラが多い。周辺の農業肥料の影響か。河川の窒素も多いと考察。

今後は植生調査と、土壌調査を同日に行う。環境影

響受けやすいササラダニを調査対象にする。

質問 植生調査と草刈りの関係は

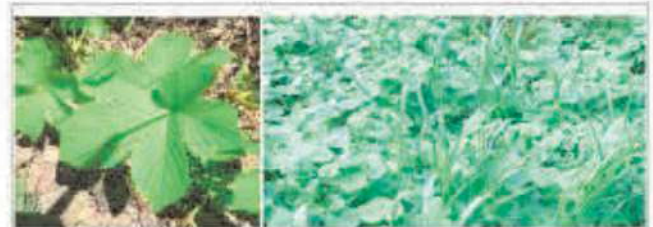
→草刈り前の10月に植生調査。収穫期を避けて草刈りがあり、その前にした。

質問 古利根川は水位変化1.5mあるが、芝川はどうか。

→芝川の水位は調べていないが、大きな変化はない。

質問 芝川を調べた理由は

→本校の脇を流れている川だから調べた。



カナムグラ(左) アレチウリ(右)

(3) 黒目川に親しむ会・筋肉部 活動紹介

安全な魚とりの説明



埼玉県南部朝霞市の黒目川で活動する黒目川に親しむ会。若者グループ、小中学生、高校生、大学生らが活躍。黒目川川まつりや魚とり教室で、参加した子供の皆さんに、安全な川遊びの注意点をアピール。

特定外来生物を単に駆除するのではなく、命あるものとして丁寧に吊っている。

毎月の魚類調査、年一の水質調査、川ごみ調査に参加。アユの産卵場づくりの「川耕し」で、川底の石を洗い、アユが産卵しやすい環境づくりをしている。

質問 小中学生がなぜ活動に参加しているのか。

→アユが食べられる。投網が楽しい。魚が好きだから。

質問 川ゴミはどうか。

→増水した時だけ出てくる。

質問 筋肉部は朝霞市民だけか。

→誰でもOK、参加したい気持ちがあれば。

質問 どんな魚が多いか。
→アユ、コイ、ボラ、オイカワ

質問 漁業権はどうなっているのか。
→小中学生は遊漁券なくてもさかな取れる。埼玉南部漁協の遊漁規定。



—休憩—
再開

川の課題提起(会場からの発言)

① 春日部市古利根川／かわまちづくり (国交省支援制度) について、春日部市のHPにあり。川に人のにぎわい作る観光振興プラン。川べりのキッチンカースペース(3m×60m)がつけられる。川岸は、かつて段々状にみどりがあったのを埋めて、歩道を作った場所。そこにテラスをつくりキッチンカースペースとする。(年に何回か使用するだけ)みどりを回復でなく、より人工的になる。

質問 そのあたりに水辺に近づける所ありますか。
→1km 下流に水辺を歩く所ある。

質問 キッチンカーがないときは、テラスは広場になるのではないかと。
→近くに広場はない。そのためか橋の上に広場が作られた。

意見 都会へのアクセスよい田舎で、緑もある春日部の再開発したいのではないかと。生態系壊してなければよいのではないかと。
→付近はコンクリート護岸。駐車場なく、車が川べりに停められている。鉄製のテラスを魚が見たら、と思う。

説明 キッチンカーテラスは空中張り出しで、川岸を埋めない工法。宙に浮いている。

意見 魚から見て影響はないと思う。川幅 70mのうち、3m テラスなら、魚には変わらないと思う。テラスは広場として、普段使える。

質問 このことを議論できる場あるのか。
→県・市には意見述べている。すでにワークショップもしているとの事。

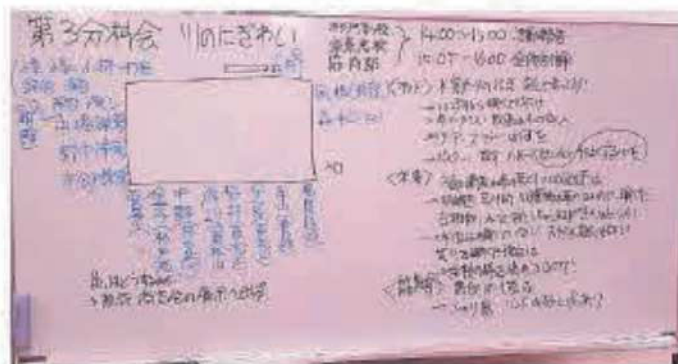
意見 にぎわい、水辺に近づける場になるのならよいのではないかと。コンクリートで埋めなければよいのではないかと。

② 綾瀬川のかわづくり (川口市)
(遊歩道整備)はつらつプロジェクトとして、町会長、市、NPO が集まり、話し合いをした。自然を残せという意見が通った。遊歩道表面を、町会長は、土はよくないと言ったが、800m区間は裸足で歩ける土ロードにした。

③ 比企での川づくり (東松山市)
水害があって、その改修工事終わっていない。戸惑っている。都市河川での違う、うらやましいと思った。堤防づくりに金がかかる。防災優先の川づくり、水害をどうするかに話が集中している。

④ 柴山沼 (元荒川のなごり)
テラスでもなんでも、人が集まってほしい。

⑤ 黒目川 (新座市)
うちの川は、水辺に近づけない黒目川なので、水辺に近づけるようにしてもらいたい。



ホワイトボード左上 中堀(栄東)は中森(栄東)に訂正

川の再生交流会 2026 分科会会議録

分科会名	「水辺の生物」分科会 : 身近な生き物の調査研究・保護・環境学習		
開催日時	令和8年2月14日(土曜日) 14:00 ~ 16:15		
場所	埼玉会館 7A会議室	進行者	守山義一
出席者	・運営員3人(守山・藤田・小林)・一般参加(高校生・団体等)31人・運営補助3人(県職員)計37人	記録者	藤田宏之 小林光春
議題テーマ	参加者全員の自己紹介と現在活動している「水辺の生物」の情報交換交流		
会場での配布資料	① 富士見市ホトケドジョウ A4-2 枚 ② CESS 生態園春夏秋冬マップ A4-4 枚 ③ 栄東: 芝川水質調査 B4-2 枚 ④ 荒川流域一斉水質調査 A2-1 枚等		
1. 自己紹介			
会議は長テーブル3台/1辺の口の字型対面レイアウトで高校生から簡単に所属団体・氏名を、個人参加の場合は氏名を、又、お住まいや現在活動している概要や興味ある水辺の生物等、分科会参加者全員に1分程度にまとめて述べて頂いた。			
2. 「水辺の生物」に関する情報交換			
生き物を受する参加者皆と共に埼玉県内の「水辺の生物」の情報交換の場とする			
■-1: 先ず「水辺の生物」についての簡単な話題や活動及び情報提供などで始める			
* 第3展示室でのポスターセッションでの発表団体から司会より対象2団体を指名			
(1) 栄東高校理科研究部: 芝川を対象に1988年からの水質調査とプランクトン数の推移調査を結果・考察等含め、配布資料にて解説紹介。水質調査では局所的(網代橋)にNO ₃ -Nが高いカ所があったが、鳩の糞が混入と追加実験で確認は立派でした。プランクトン数とアオコの発生原因との相関は天気や水量、水速度、水温、栄養源等、要因多く大変だが、今後はアオコの発生を抑制する方法を模索との事で期待。			
(2) 荒川流域ネットワーク・日本釣振興会埼玉県支部: 河川の環境改善も配布資料の通り継続して取り組んでおり、特に荒川のアユについては昔は漁業、現在は投網体験等体験型学習や魚釣り等で又、河川事業では「堰と魚道」に関心が有り、県や国交省とも相談助言して、荒川上流~下流はアユを通して繋がっており、アユ釣りはちょっと商業的面は有るが、今後も埼玉の自然を守る活動を継続して行きます。			
■-2: 会場参加者からの環境活動の話題提供や情報交換			
【事案-1】			
栄東高校理科研究部3年生から「皆さんにお尋ねします。『川の理想とは何でしょうか?』との発言が有りました。司会者がある発言を含む発言を参加者に求めました。			
(1) 最近では身近な地域の河川には出来るだけ近づくな、危険で怖い所だとの風潮ですもっと身近で川の中に入って遊んだり、魚を釣ったり出来る環境の川にしたい。			
(2) 生き物は上流・中流・下流で透明度だけでなく、有る程度の水質でも大丈夫です。川に入ったら何か生き物が、出来たら魚が泳ぎまわっている川の環境が望ましい			
(3) 皆さんが住んでいる地域の川を好きに成り生き物を見て触って五感で感じて欲しい			
(4) 水中カメラマンから見た見解(映像的に見て)どんな川や水質が良いかの解釈は? ⇒昔は人工物や構築物が画面に入れない方が良かったが、最近では特に埼玉県内では「映える」等で人との共存画面が好評。又、大型記念構築物の周りにはごみが散乱、捨てなくても・・・、やはり、ごみは皆が出さないことが一番と痛感しています。			
(5) 小中学生は運動部に所属多く、野外での自然に親しむ機会は少ない。埼玉県内の水辺には生き物が多いです。皆が遊び学び集まる水辺&川は綺麗にしましょう。			
【事案-2】			
川の専門家(埼玉県立川の博物館)から見た人と川の共存に対する視点			
(1) 生きものを探したら面白い川が良いですね。川の上流・中流だけでなく下流域でも			

<p>例えば海水が入る汽水域には色々な生き物が、大きな魚も・・・埼玉県内にも面白い小さい川・大きい川が沢山あります。面白くなく残念な川は、生き物が少なく何か探しても見つからない川です。川に沢山生き物が居れば、多くの県民が集まります。この会場には土木の専門家はいないようですが、是非、土木行政の関係者の協力を得て、多くの生き物が居て、多くの県民が集まり楽しむ川にして貰いたい。</p>
<p>(2) 栄東高校理科研究部水質調査とプランクトン数調査は中々良く素晴らしいかったです中でも鳩ヶ谷大橋での「鳩（ハト）の糞の水質への影響調査」そこまでの調査は中々突っ込んで出来ませんが感心しました。出来たら他の鳥たちの糞も汚染源かどうか調べて頂きたいが？⇒確かに街中には色々な鳥が・・・やってみたいと思う！（栄東）</p>
<p>【事案-3】</p>
<p>ポスターセッションでも展示発表された「ホトケドジョウ（魚）」について解説紹介 * 体長5～7cmの小さいドジョウがなぜ？「埼玉県レッドデータブック動物編」に登録</p>
<p>(1) ホトケドジョウ調査会：活動歴は5～6年で調査の発端はホトケドジョウが住んでいそうな湧水地周りを河川改修工事で本当にいなくなってしまうと・・・ホトケドジョウの行動範囲は広く、流域に生息していたが現在は残った湧水周りだけにしょうがなく生息して調査すると思った以上に生息しているが、現在、川は綺麗に成ったが一番の問題は支流や下流への移動や生息段差が有り、移動出来ない事です。自然関係の予算は余り付かず、どうしても老朽化対策や災害関係が優先で、色々課題は有るが湧水周りとホトケドジョウをキーワードとして、土木工事関係者とも周知相談してホトケドジョウが戻れる環境を目指して活動を継続させたいと考えています。</p>
<p>(2) 山室湧水路の清流保全プロジェクト：2014年8月、富士見市の新河岸川支流、図川の支流、山室排水路でホトケドジョウを発見し保全活動をしている。2022年新河岸川と砂川堀合流点の堤防工事による、水位の同一化による在来種のウキゴリ類の侵入が激増。23年から26年で4642匹を捕獲した。絶滅危惧種ホトケドジョウ稚魚は21年に223匹が昨年は1匹と成った。県河川砂防課・県土整備事務所による治水対策工事計画を県みどり自然課と情報共有すること。併せて、県レッドデータブックに登録されている市町村の河川担当に、情報共有し絶滅危惧種の保存対策を指導援助することが重要であるとの教訓を教えられました。</p>
<p>【事案-4】</p>
<p>ホトケドジョウと似たような「限られた環境での生息生態」の例としてトウキョウサンショウウオを見つけたり、再発見した等の嬉しい良い保全活動事例を紹介願いたい</p>
<p>(1) 東松山市立桜山小学校関連：動物公園隣地の湿地で10年以上前に一度、絶滅したと思われたが、3年前に「川の博物館学芸員」からの情報も有り「卵」を確認し、水源水路作ったり、整備活動をしています。生息数は回復中で今年は少雨で水路水量は少ないが、単年だったら翌年の生息状況への影響は少なく大丈夫との結果は把握済みただ最近のアライグマの被害影響が心配されているが、防護対応はしており効果有り今後も産卵時期に川床の浅い地点では「卵」が、他の生き物への被害が懸念される。</p>
<p>(2) 児沢探検隊（東松山市）：25年前からホトケドジョウの活動をしているが、10年前には絶滅したのかいなくなり、活動は停滞気味で有ったが、トウキョウサンショウウオの生息が確認されてから、子供たちも生き物調査に参加するように成り、産卵等も一緒に確認し、探索時はその風貌が「ウーパールーパー」に似ていることも有り、ワクワクしながら楽しく参加しています。狭い範囲での活動ですが継続しての保全活動です。</p>
<p>【事案-5】</p>
<p>水辺の環境づくり：埼玉県の生物多様性のシンボル「ムサシトミヨ」について 熊谷の環境を考える連絡協議会 荒川流域のムサシトミヨは何故、生息数が少なくなったのか？・・・原因は東京オリンピック時の開発事業で、河川の砂利採取が過剰に行われ、地盤低下と湧水量減が影</p>

響したが、熊谷地区の一部が県の養殖系試験場の分場が有り、一部の湧水が残り
生息していた。最近では湧き水が復活し、ホタルも復活しているが、ムサシトミヨには
水温 15℃を1年通して維持管理・守る事が、年々厳しく成って来ており、難しいです。

【事案-6】

水辺の環境づくり ⇒ 生態系に必要な水源&湧水を確保する為の意見・提言等

- (1) 埼玉県生態系保護協会 戸田・蕨支部：都幾川と荒川の合流地点から下流にかけて
外来水性植物の拡散対応が課題で、ボランティア活動だけの除去作業は限界が
有ると感じています。又、川釣りをやる人をお願いしたいですが、靴底に水性植物
が付着して、拡散するので注意をお願いしたいです。
- (2) 環境大学修了生の会：水辺の環境土壌に関しては行田市の土壌祭りが毎年7月中旬
から10月中旬に開催されますので、興味のある方は参加して見て下さい。
- (3) 行田市 荒川の自然い親しむ会：元荒川だけでなく、ムサシトミヨの生育の為にも
湧水の水源を探さねばならないです。湧水減の原因は砂利の採り過ぎで川水位が
下がった事ですが、この地は元々、荒川の扇状地で探せば見つかると思います。
湧水源を探すには国や県と地域一緒でのキャンペーンを是非、お願いしたいです。
又、U字溝の問題では魚道も関係するので、土木事業関係部署にも生物に優しい
水路づくりへ「川の再生交流会」をも通してのお願いしたいです。
- (4) 越谷北高校生物部：分科会参加の皆様は「クニマス」をご存じですか？戦前は秋田
県田沢湖にしかクニマスはいなかったですが、国の水力発電&農業用水のための
ダム土木工事で田沢湖は酸性化して魚が住めなくなり、クニマスは姿を消しました。
ホトケドジョウやアユも水路の堰+魚道がポイントで河川の公共工事が大いに関係
します。勿論、公共治水工事は行政としても人の命や災害から守る使命は有りますが、
「これからの市民の自然保護活動の団体として行政とどう向き合うべきなのか？」
この課題に対しての、皆様の意見を聞きたいです。

- ① 水辺の生物にとって、湧水は最後の「砦」です。湧水地点の管理は、そんなに負
荷の大きい作業では無い？ので、是非、自分たち皆で守り抜きましょう。
- ② 子供たちの通学路周囲には「除草剤散布禁止」して欲しいが・・・この除草剤問題
安全性や危険性及び農業の生産性等、専門性が有るので、検討課題とします。
- ③ 行政との向き合い方ですが、民主主義の日本では物事を進める為の意思決定には
多くの民意が必要です。そのには、若い人たちを巻き込んだ、特に高校生
達の若い世代が自然体験等を通して自然は大切と考える事が大切だと思います。
- ④ 自分の経験から思うのは、小中学校時代は運動系で、高校の生物部に入り初めて
自然の野外活動・観察会等に参加してから、環境活動に関心を持ちました。
子供たち若者に対しては、先ず、ちょっとした環境問題等を投げかけて、関心
を持って貰う方が、良いのではと思います。

■-3:「水辺の生物」分科会を終えて

今回の分科会スタートは高校生から始まり、でも高校生で終わりました。ほぼ会場満杯
の情報交換会の中身も濃い内容で素晴らしい分科会と成りました。こんな県民が多く
いたら益々素晴らしい埼玉県に成ると思います。本日は本当に有難うございました。

【分科会参加団体・学校等一覧】

埼玉県立川の博物館、東松山市立桜山小学校教諭、公益財団法人日本釣振興会埼玉県支部、
和光自然環境を守る会、ホトケドジョウ調査会、栄東高校理科研究部、山室湧水路の清流
保全プロジェクト、彩の国環境大学修了生の会、児沢探検隊、元荒川の自然を守る会、
県立杉戸高校理科部、Plus-R (水中カメラマン)、埼玉県生態系保護協会 戸田・蕨支部、
行田市 忍川の自然と親しむ会、県立越谷北高校生物部、越谷市カヌー協会、
公財法人本庄早稲田国際リサーチパーク、熊谷の環境を考える連絡協議会



埼玉会館7階 分科会会場



分科会会場のセッティング (運営補助員)



第4分科会 運営員の3人



分科会会場風景 (高校生サイド)



分科会会場風景 (環境団体)



テーブル外に運営補助3人

【埼玉県川の再生交流会2026・第5分科会〈水質改善〉報告】

1. 分科会運営委員

- 座長：大石昌男（戸田の川を考える会）
- 司会：角田道郎（戸田の川を考える会）
- 幾島淑美（綾瀬川を愛する会）

2. 分科会参加者自己紹介

自己紹介で本日この分科会に参加した理由や所属する会の活動報告等が自由に語られ、いい交流の場となった。参加者の所属団体は、河川護岸工事業者（F社）、（一社）埼玉県浄化槽協会、草加市カヌー協会、綾瀬川を愛する会、戸田の川を考える会、さって市民環境ネット、東松山環境管理事務所、埼玉県生態系保護協会川口支部、新河岸川を守る会。以上、9団体・分科会参加者22名。

3. 座長からの問題提起（第1部全体会での大石発表の補足）

発表テーマ「綾瀬川ワースト1（ワン）脱却大作戦について」

- ・綾瀬川がワースト1になった原因について、県は一度たりとも説明していない。
- ・“荒川導水事業”（全国初の試みとして地下鉄〈埼玉高速鉄道〉のトンネル下部を河川の導水路（延長16km）として利用し、綾瀬川、伝右川、毛長川、芝川へ水を流す国家予算300億円をかけた事業）で水質改善がみられたというが、水量が増えたのは良かったがあまり効果はなかったと思う。
- ・それよりは、我々は沿川における浄化槽の数、保守点検実施率に目を向け、「川の水質は浄化槽の保守点検実施率の多さに比例する」ということ（方程式）を突き止めるに至った。
- ・この方程式を展開するには行政だけでは実現できず、施工業者や住民（団体）、町会等の市民の連携が重要になる、と考えた。この提案が「浄化槽フォーラム／国」の設立を生んだ（大石昌男、幾島淑美が理事を務めた）。
- ・（分科会参加者の質問に答えて）浄化槽の保守点検が川の汚濁にとって重要であるといつの時点で気づいたかはよく覚えていない。
- ・「令和6年度浄化槽法第11条検査（浄化槽の保守点検や清掃が適正に行われ、浄化槽の機能が発揮されているかを確認する検査で、年1回行われねばならない）実施率」（グラフ作成：水環境課）についての説明。下水道が整備されている地域では必然的に浄化槽への依存度は低くなり、逆に下水道に頼れない地域は浄化槽完備へ向かうことから、単純に比較はできないが、本資料の数値の地域差には各自治体の“努力”の跡も垣間見られる。

4. 「一般社団法人・埼玉県浄化槽協会」から「浄化槽の使い方について」の説明

川の浄化運動は、①行政部門（市町村・県の運動）、②浄化槽協会との連携（業者）、③市民運動（各地の環境保護団体の活動）、の三者が補完しあっていくことが重要。本日参加の県浄化槽協会から、説明をいただいた。

- ・毎日の生活の中で多くの水を使用し、その水の多くは汚水となり、川に流れていく。この汚水を処理してきれいな水にする役目を担うのが浄化槽。浄化槽にその機能を十分に発揮させるため、正しく使用し、保守点検と清掃を行い、法定検査を受けることが重要。
- ・浄化槽内へ流入させることが好ましくないものについて。
 - ① ペットの糞尿や流せる猫砂。ペットの糞尿は人のし尿より高濃度なので臭気の

発生や水質に影響が出る恐れがある。ペットの糞尿は繊維質が多く分解しにくい。流せる猫砂であっても浄化槽の詰まりや詰まりによる故障を引き起こすことがある。＜対策：ペットの糞尿や猫砂を浄化槽に流さず、市町村の指定した方法で処理する＞

- ② 大量のトイレットペーパー。＜対策：トイレットペーパーは適量使用する。ウェットティッシュは水に溶けにくいので流さない＞
 - ③ 塩素系洗剤&漂白剤、硫黄系の入浴剤。＜対策：成分表やまぜるな危険の表記があるかを確認して洗剤を選ぶ＞
 - ④ 油脂。＜対策：塩素系洗剤や漂白剤は適量使用し、できるだけ中性のものを使用する。硫黄系入浴剤は浄化槽ではできるだけ使用しない＞
- ※まとめ：浄化槽内の微生物に影響の少ない商品を使用したい。

■浄化槽を管理する上でやらなければならないこと

- ①清掃…浄化槽内に生じた汚泥などの引き抜きや調整、機器類の洗浄のこと。年一回以上実施しなければならない。市町村長の許可を受けた業者に委託すること（許可業者の確認は各市町村ホームページ等で確認可）。
- ②保守点検…浄化槽の点検、調整や修理のこと。浄化槽の処理方式や規模によって定められた回数を実施しなければならない。県知事登録（さいたま市、川越市、川口市、越谷市内は市長登録）を受けた業者に委託すること（県・市ホームページで確認可）。
- ③法定検査…上記①や②とは別に行う浄化槽の健康診断のことで、次の2項目。
 - ・7条検査：設置後の水質に関する検査。浄化槽を使い始めて3か月～5か月間に行わなければならない。
 - ・11条検査…定期水質検査。保守点検や清掃が適正に行われ、浄化槽の機能が発揮されているかを確認する。

※法定検査の実施率が高いほど近隣の川の水質は良い、と言える。

5. 研究協議

- 綾瀬川での川の活動が楽しかった。汚いと言われた綾瀬川がきれいになってきたのが嬉しい。ただ、ここだけがきれいになれば良いのではなく、その下流の川の汚れにも関心を向けていきたい。
- 川の水質調査をやって、下流の方が水質がきれいな結果が出たことがあった。普通下流の方が汚いと思っていたが、流れる川の自然浄化作用もあるのだろうか…
- 川の護岸工事を仕事としている会社の者として、与えられた仕事をやっているだけではダメ。治水対策だけではなく、どの業者も川の環境改善にも関心を高めていく必要がある。魚が増え、川がきれいになる工法を追求していきたい。

6. まとめ

- 本日埼玉県浄化槽協会の方から浄化槽の正しい使い方、維持管理が大切なことを聞き、いい勉強になった。
- 浄化槽の意義や正しい使い方の普及、啓蒙を通して、水に関する環境保全活動をより活性化させ、全国的な情報交換のネットワーク作りを行うため設立された「浄化槽フォーラム」（国組織）は、各理事のやれる範囲でその周辺に取組を拡げるという方針の下、埼玉では「浄化槽フォーラム埼玉」を立ち上げて運動を続けてきたが、ここでこの組織を一旦閉じることを本分科会で決した。綾瀬川の汚れが脱却できたことを一定の成果とし、今後活動を止めるということではないが、区切りとする。



川の再生交流会2026アンケート

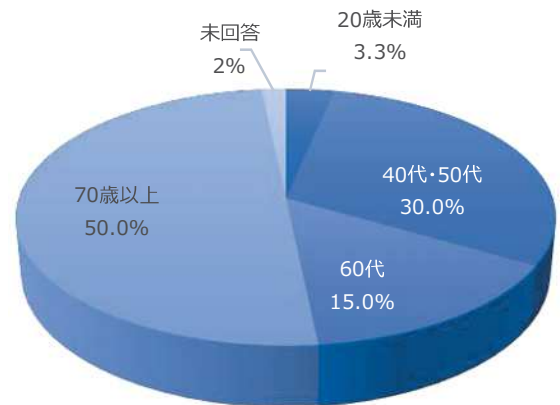
■ 回答者情報

年齢

区分	%	回答数
20歳未満	3.3%	2
20代・30代	0.0%	0
40代・50代	30.0%	18
60代	15.0%	9
70歳以上	50.0%	30
未回答	1.7%	1
	100.0%	60

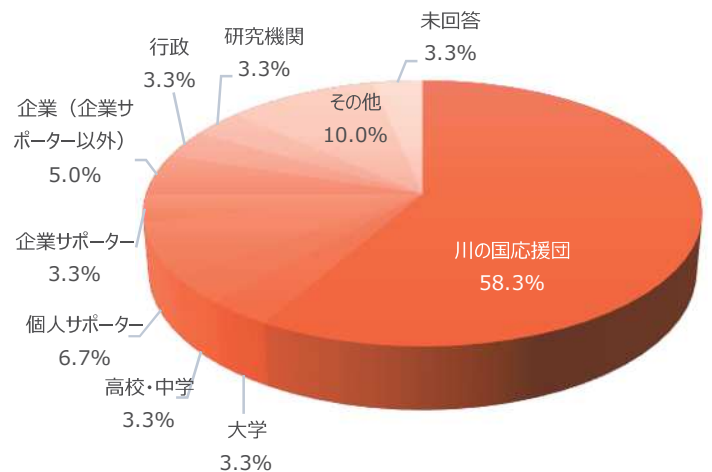
回答者 60人

※空欄や複数回答により回答合計数が回答者数と一致しない場合があります。



所属

区分	%	回答数
川の国応援団	58.3%	35
大学	3.3%	2
高校・中学	3.3%	2
個人サポーター	6.7%	4
企業サポーター	3.3%	2
企業（企業サポーター以外）	5.0%	3
行政	3.3%	2
研究機関	3.3%	2
その他	10.0%	6
未回答	3.3%	2
	100.0%	60

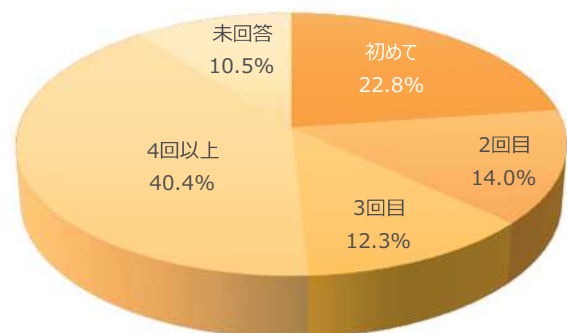


その他回答

- 修了生の会
- 環境NPO

参加回数

区分	%	回答数
初めて	22.8%	13
2回目	14.0%	8
3回目	12.3%	7
4回以上	40.4%	23
未回答	10.5%	6
	100.0%	57



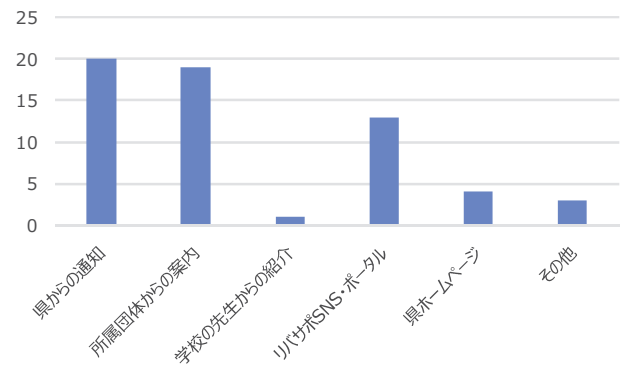
■川の再生交流会および【第1部】全体会について

来場のきっかけ（複数回答可）

区分	%	回答数
県からの通知	33.3%	20
所属団体からの案内	31.7%	19
学校の先生からの紹介	1.7%	1
市町村からの通知	0.0%	0
リバサポSNS・ポータル	21.7%	13
県ホームページ	6.7%	4
その他	5.0%	3

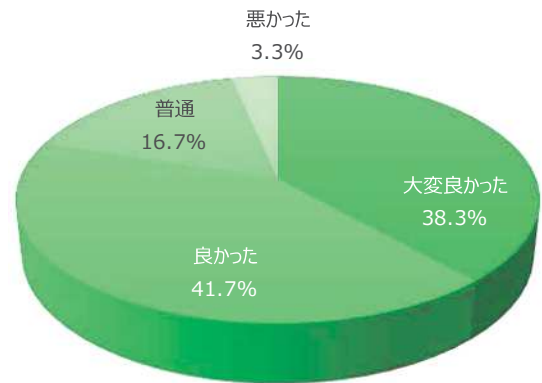
その他回答

- 県の施設（環境科学国際センタ）の紹介
- 埼玉広報



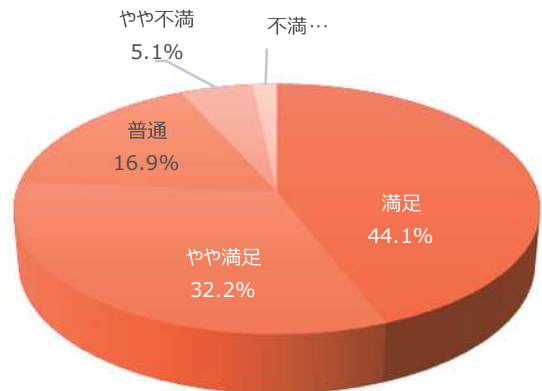
スタッフの対応

区分	%	回答数
大変良かった	38.3%	23
良かった	41.7%	25
普通	16.7%	10
悪かった	3.3%	2
大変悪かった	0.0%	0
	100.0%	60



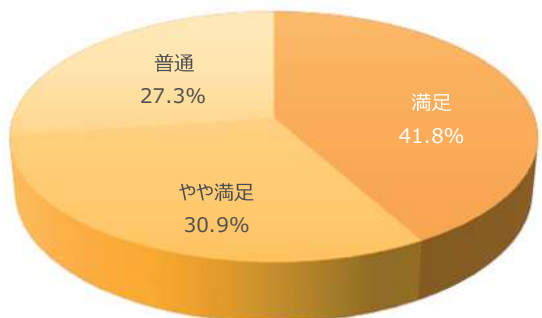
基調講演

区分	%	回答数
満足	44.1%	26
やや満足	32.2%	19
普通	16.9%	10
やや不満	5.1%	3
不満	1.7%	1
	100.0%	59



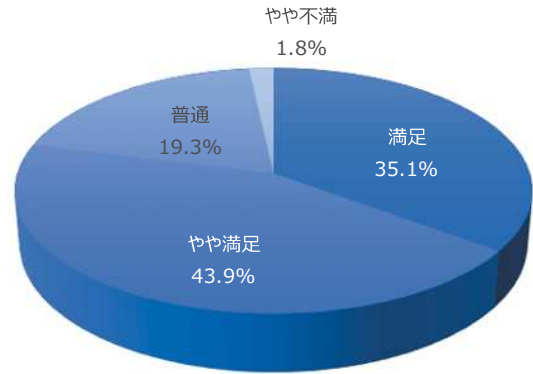
事例発表（埼玉県河川環境団体連絡協議会）

区分	%	回答数
満足	41.8%	23
やや満足	30.9%	17
普通	27.3%	15
やや不満	0.0%	0
不満	0.0%	0
	100.0%	55



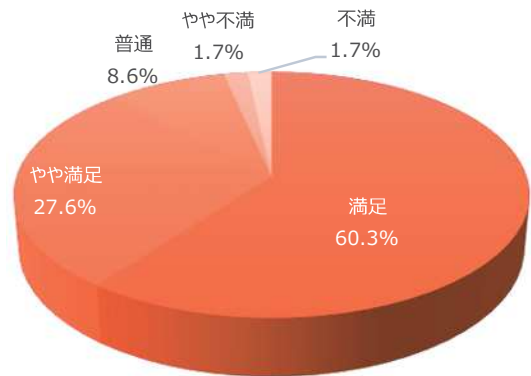
事例発表（水環境課）

区分	%	回答数
満足	35.1%	20
やや満足	43.9%	25
普通	19.3%	11
やや不満	1.8%	1
不満	0.0%	0
	100.0%	57



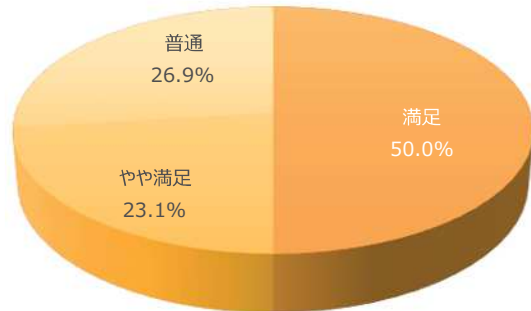
事例発表（熊谷女子高等学校）

区分	%	回答数
満足	60.3%	35
やや満足	27.6%	16
普通	8.6%	5
やや不満	1.7%	1
不満	1.7%	1
	100.0%	58



リバサポアワード

区分	%	回答数
満足	50.0%	26
やや満足	23.1%	12
普通	26.9%	14
やや不満	0.0%	0
不満	0.0%	0
	100.0%	52



その他、第1部の内容について、ご意見ご感想や、今後希望する内容等をご記入ください。

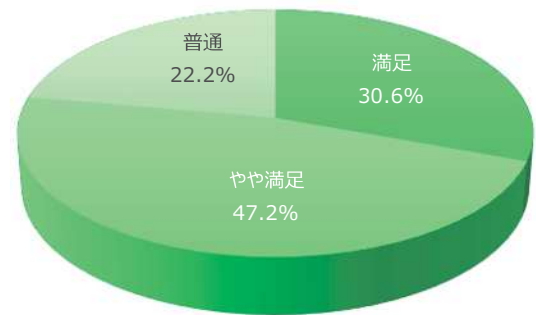
（発表について質問したいことがある場合もこちらにご記載ください）

- 高校生の発表が具体的で、ムサシトミオに対する興味・関心が現れており良い印象でした。埼玉連会長大石氏の発表も熱量の込められたお話で良かった。
- 設備が無い。OHP
- 県の下水道に関する問題や新たに知れたことも多くありました。ムサシトミオを守るための高校生の取り組み応援しています。
- 学校の授業で知ることのない下水道などについて知ることができてよかった。
- 八潮の状況が良く良かった
- 地味な活動をする人達を大切に
- 地味な清掃活動の人達を大切に
- プロジェクタの不調が残念でした。
- 埼玉県下水道の話が参考になった。
- カメラ撮影を会場からもさせて欲しい
- 機材の不調が残念だった。
- 僕は川の清掃をしています。皆んな人を増やす様にやります。
- 八潮の今後の復興のみとおし（年数）を言っては良かった。また新たな下水管の特徴や取りかえ計画など、未来の話を書いてみたかった。
- 下水道の講演は非常に興味深く聴きました。団体、高校の発表で、埼玉県の水環境改善の運動の厚みを実感しました。埼玉県（行政）の川の更なる再生への取組が引き継がれてゆくことを期待しています。団体の活動への表彰もぜひ続けて下さい！
- 基調講演30分ぐらいで終わるとうれしい。
- 皆んなで人を増やすように
- 大変勉強になりました。浄水槽のお話、まったく知りませんでしたが興味深く聞かせていただきました。
- 1）基調講演：PC不具合、プロジェクター、あり後半残念でした。パワポ資料手元のもので説明はできたはずと思いましたが。重要な今回事故の原因について（レジMP33ページ）下水道維持管理指針実践編2014の当時の評価、今後の管理方法、考え方を話してほしかった。2）ワースト1綾瀬川 なぜ汚いか 浄化槽の適正な管理せず放流している実態がわかった。（大石昌男氏） 浄化槽、設備と名の付くもの維持管理（設備機器類の定期点検・清掃）設備の放流水の水質測定は常識だと思う。これを実施していないは、考えられないことだと思います。
- とても良かった。来年も来ます。
- 講演中にスライドが映らない時間があったのが残念でした。
- プロジェクターの途切れは、良くない、気になって内容が入らない
- 草加パドラーズの活動をとりあげて下さってありがとうございます。
- 映像がとぎれてしまっただけで残念だったのですが、工事の内実を知れてよかったです。流域に関心をもつきっかけになりました

■【第2部】ポスターセッションについて

第2部の内容

区分	%	回答数
満足	30.6%	11
やや満足	47.2%	17
普通	22.2%	8
やや不満	0.0%	0
不満	0.0%	0
	100.0%	36



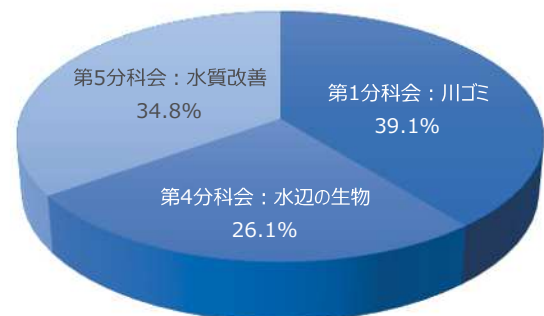
第2部の内容について、ご意見ご感想や、今後希望する内容等をご記入ください。

- 時間が不足してゆっくり見ることができなかった。
- しめる時間が早すぎる
- 環境調査を行う高校生の取り組みや様々な市民活動団体の皆様と話をすることが出来ました。新たに知れたことも多く、発見がありました。
- ポスターを見てくれた人の質問や意見の内容が今後の調査に役立ちそうだなと思った。
- ムサシトミヨの繁殖を応援したい。
- 日ごろの研究成果を見せてもらった。
- 若い人に期待
- 若い人を期待
- (発表団体として) A1サイズにきれいに出力展示していただけたのがよかった。ありがとうございました。
- いろいろな活動を知ることが出来てよかったです。
- 高校や大学等の活動を知った。
- 毎回盛況で埼玉県の川の再生に係る活動の多彩さに驚かされます。すごいです!
- 各団体の説明は、興味ある内容でした。展示時間をもっと長くしてほしいと思います。分科会の時間くらい(展示に1時間、この会場まで片道1時間以上かかる方々がおられます)
- 個人的には、あまり興味を持ってなかった。
- 浄化槽の適正管理の重要性を認識しました。
- 学生の発表が多く良かった。
- ポスターの大きさをもう少し大きく

■【第3部】分科会について

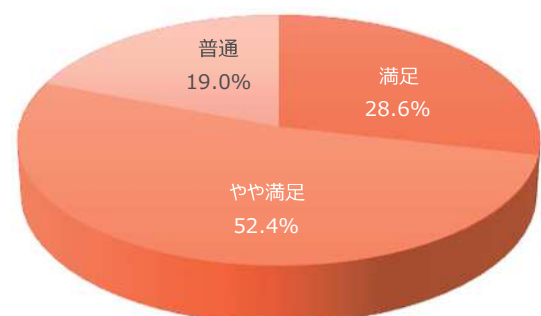
参加された分科会

区分	%	回答数
第1分科会：川ゴミ	39.1%	9
第2分科会：川と防災	0.0%	0
第3分科会：豊かな水辺空間づくり	0.0%	0
第4分科会：水辺の生物	26.1%	6
第5分科会：水質改善	34.8%	8
	100.0%	23



第3部の内容

区分	%	回答数
満足	28.6%	6
やや満足	52.4%	11
普通	19.0%	4
やや不満	0.0%	0
不満	0.0%	0
	100.0%	21



第3部の内容について、ご意見ご感想や、今後希望する内容等をご記入ください。

- いろいろな意見を交流できる、機会は今後も大切にしたい。
- 自分に関わりがない地域や川での活動などについて知ることができた。
- ゴミ減量作戦に大変役立った、参考にした。
- 大変良かった
- 大変良かった
- 発表者用に用意いただいたPCにマイクロソフトのパワーポイントが入っていなかったのでもく使えず残念だった。参加者の熱いお話を伺えてよかった。
- 浄化槽の話題は、下水区域の方達には実感がわきにくいようです。テーマ設定に工夫が必要と思われます。
- 水質改善について、浄化槽だけの議論になっていてよいのか疑問を感じた。他の観点からの討論も必要ではないか。
- あやせ川的环境保全が基準値まで改善された旨を知る。ごくろさんでした。汚染日本一はうれしくない名称だ、返上となる。
- 今回、発言の機会をいただきありがとうございました。「特定外来生物」について、今後も全県での情報共有をできれば良いと考えます
- 大石さんが、活動を卒業されると聞いて、とても残念です。
- 浄化槽のことが色々知れてよかった。検査率を上げるように広めてほしいと市長に意見しようと思う。
- 浄化槽は日本だけしかないとはじめてしりました。浄化槽が水質じょうかのポイント
- 同じ目的がテーマでしたので、話がもりあがり参考になりました



リバサポ公式SNSをフォローして
リバーサポーターになろう！

LINE 友だち追加



読み取ったら
「追加」ボタンを押してください。



Facebook



X



Instagram



【問合せ先】

埼玉県環境部水環境課 浄化槽・豊かな川づくり担当
048-830-3088 / a3070-13@pref.saitama.lg.jp